金　　日　　成

全民族が団結して祖国の統一をなし遂げるために

全世界の勤労者団結せよ！

金　日　成

全民族が団結して祖国の統一をなし遂げるために

朝鮮・平壌

外国文出版社

チュチェ 97（2008）

目　　次

全民族が団結して祖国の統一を促進しよう
汎民族大会に参加した代表におこなった演説
（1990年8月18日）

わが民族の大団結をなし遂げよう
祖国平和統一委員会の責任幹部、祖国統一汎民族連合北側本部メンバーとの談話
（1991年8月1日）

全民族の団結の力で祖国の統一を自主的に実現しよう
第3回汎民族大会に参加した海外同胞との談話
（1992年8月19日）

北と南の女性は団結して祖国の統一を促進しよう
「アジアの平和と女性の役割」にかんする第3回平壌討論会に参加した南側代表団、海外同胞女性との談話
（1992年9月6日）

祖国統一のための全民族大団結10大綱領
（1993年4月6日）

全民族が団結して祖国の統一を促進しよう

汎民族大会に参加した代表におこなった演説

（1990 年 8 月 18 日）

わたしはきょう、海外の各地域から祖国統一の熱望をいだいて祖国を訪問し、汎民族大会に参加した代表のみなさんと会えたことを非常にうれしく思います。

みなさんは、海外で民族の悲願である祖国統一偉業の実現をめざして献身してきた愛国者です。みなさんは今回、祖国の平和と統一のための汎民族大会を板門店（パンムンジョム）で開催するため多大の努力を傾け、また汎民族大会が成功裏に進められるよう積極的に努力しました。

わたしは、代表のみなさんの共同の努力によって汎民族大会が成功裏におこなわれたことを熱烈にお祝いします。

祖国統一の希望をいだかせる 1990 年代の初年に開かれたこのたびの汎民族大会は、1948 年の南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席会議とともに、祖国統一をめざす朝鮮人民の闘争史に特記すべき歴史的な会合でした。

このたび北と南、海外の同胞が、思想と理念、政見と信教の違いを越えて一堂に会し、祖国統一を促進する方途と共同の闘争対策を討議したのは、民族分裂史上はじめてのきわめて意義深いことです。世界の進歩的人民の大きな関心のもとに開かれた汎民族

大会は、分かちがたい一つの民族として、統一された一つの祖国で暮らそうという朝鮮民族の統一への熱望と、くじくことのできない統一意志を明白に示しました。

このたびの汎民族大会には、南側からは南側推進本部代表として１名が参加しましたが、北と海外からは祖国の自主的平和統一のためにたたかう各統一運動団体の代表と人士が多数参加しました。このたびの大会に参加した代表のなかには女性も約 200 人いるとのことですが、これは非常に好ましいことです。

汎民族大会で、代表のみなさんは祖国統一を促進する決意をかため、りっぱな文書を採択しました。大会の前後に開催されたさまざまな行事もすべてりっぱにおこなわれました。このたび、南側は大会に計画どおり代表を送ることができませんでしたが、放送を通じて汎民族大会のニュースを聴取し、大会の精神に積極的に呼応しました。これもやはりすばらしいことだと思います。

全般的にみて、このたびの汎民族大会は全同胞の統一念願と期待にこたえて開催され、大会がおさめた成果はじつに大なるものがあります。わたしはこれを非常に満足に思っています。

みなさんが汎民族大会でひとしく決意したとおり、われわれは 1990 年代に必ず祖国統一の歴史的偉業を成就しなければなりません。

民族分裂の悲劇を終わらせ祖国を統一することは、こんにち全朝鮮民族のもっともさし迫った課題となっています。

朝鮮民族は歴史的に一つの国土で固有な文化と歴史を創造し、むつまじく暮らしてきた単一民族です。朝鮮民族は外部勢力によって人為的に分裂させられ、外部勢力の妨害策動によってこんに

ちまで統一を達成できずにいます。民族の分裂は、北と南、海外に住むすべての同胞にはかりしれない不幸と苦痛をもたらしているのみでなく、民族の統一的発展と祖国の隆盛発展を阻む根本的な障害となっています。現代は自主の時代であり、分裂した諸民族はすべて統一を実現する方向に進んでいます。このような時期に、朝鮮民族がいつまでも別れ別れに暮らさなければならないいかなる理由も条件もありません。われわれは民族分裂の悲劇をこれ以上持続させてはならず、一日も早く祖国統一偉業を成就しなければなりません。

祖国の統一は全朝鮮民族の一致した熱望です。

いま北と南、海外の同胞のあいだで、祖国統一の気運はかつてなく高まっています。昨年、南朝鮮の「全大協」代表の林秀卿（リム ス ギョン）が死線を越えて平壌（ピョンヤン）を訪問しましたが、これは朝鮮人民の統一への熱望がいかに高いものであるかを全世界に如実に示しました。林秀卿は、平壌に来るときは分断の障壁のため遠回りして来ましたが、帰るときは自分の属する組織の決定により決死の覚悟で板門店を通過しました。彼女は年少の女学生ですが、じつにりっぱなことをしました。それでわたしは彼女の愛国的壮挙を高く評価し、彼女を統一の花、朝鮮の娘と呼びました。

祖国統一をめざすわれわれの闘争はもちろん困難な闘争であり、朝鮮民族の統一念願が容易に達成されるものと期待することはできません。

わが国の統一を妨げる勢力はまだ少なくありません。

朝鮮の統一を妨げる主な勢力はアメリカです。

アメリカは武力で南朝鮮を占領し、主人づらをしています。か

れらは南朝鮮に 4 万余のアメリカ軍を恒常的に駐屯させており、南朝鮮軍隊の統帥権を掌握しています。南朝鮮に駐屯しているアメリカ軍と南朝鮮軍隊を「韓米連合軍」と称していますが、その司令官はアメリカ人です。軍隊の統帥権を他人に奪われた国は、独立国家とはいえません。南朝鮮に「大統領」がいるとはいうものの、その首を意のままにすげかえる実権者もやはりアメリカ人です。歴史的事実が示しているように、アメリカ人はかいらい政権の「大統領」が気に入らなければ引きずりおろすか暗殺するかし、他の者をその座につけることができます。

アメリカの対朝鮮政策で基本をなすのは、「二つの朝鮮」をつくりあげて南朝鮮を永久に植民地として掌握することです。アメリカはアジアと世界制覇のための軍事的要衝として、南朝鮮を切実に必要としています。数年前、日本の政治理論雑誌『世界』編集長との談話でも話したことですが、アメリカ人は南朝鮮を脂身のように思い食いついて離そうとしません。そのため、朝鮮の統一問題がむずかしいのです。

日本もわが国の統一を妨げるあなどりがたい勢力です。日本はいま経済大国と称していますが、やがては軍事大国、政治大国になることを望んでいます。日本軍国主義者は「1,000 カイリシーレーン防衛」論を唱えて、海軍をはじめ「自衛隊」の兵力を増強しています。かれらの主張する「1,000 カイリシーレーン防衛」なるものは、日本から 1,000 カイリまでの西太平洋の広大な海上と空中を日本が防衛するというものですが、これは本質においてシンガポールまでのアジア、太平洋領域をかれらの勢力圏内に入れようとするものです。日本は再びアジアの盟主となってかつて

の「大東亜共栄圏」の夢を実現しようと策しています。アメリカは日本を経済大国に育てましたが、日本が今後軍事大国になれば「飼い犬に手をかまれる」ということわざどおりアメリカにはむかうかもしれません。

日本はアジアの盟主になろうという野望の実現において、朝鮮の統一が障害になると考えています。日本の反動層は朝鮮が統一されるのを恐れています。わが国の北と南が統一されれば強大国になるでしょう。北と南の経済を統合すれば大きな威力をもつようになり、人口にしても 7,000 万に達するでしょう。そのため日本の反動層は朝鮮の統一を望みません。かれらはわが国の軍事境界線を「反共防波堤」と称し、それが崩れてはいけないと公言しています。将来アメリカが南朝鮮から手を引けば、日本が再侵入しかねません。

日本の反動層が朝鮮への再侵略の野望をすてていない状況下で、アメリカとともに日本にたいする警戒心もひきつづき高めることが必要です。以前北南赤十字会談のとき、南朝鮮から来た代表が革命歌劇『血の海』を観覧したことがありますが、南朝鮮から来た一部の人は歌劇を観覧したあとで、過去の歴史をいまさらほじくりだす必要はないではないかといいました。革命歌劇『血の海』は、われわれが抗日革命闘争の時期につくって公演した演劇を、金正日(キムジョンイル)同志が指導して歌劇にしたものです。この歌劇は、搾取と抑圧のあるところには必ず抵抗があるという歴史の真理と、日本帝国主義の侵略と虐政に屈することなく立ち上がった朝鮮人民の自主的革命精神を示している作品です。すでに過ぎ去ったことだからといって、朝鮮人民が日本帝国主義の植民地支配で耐え

がたい苦痛を味わった受難の歴史を忘れてはならないでしょう。

日本帝国主義は 36 年間もわが国を占領し、「内鮮一体」「同祖同根」といって、朝鮮人の姓氏まで日本式に改めさせ、朝鮮民族を日本民族に同化させようと策動しました。李光洙（リグァンス）や崔南善（チェナムソン）のような人も、朝鮮人と日本人は「同祖同根」だと宣伝しました。日本反動層が朝鮮にたいする再侵略の野望をすてないかぎり、朝鮮民族は警戒心を緩めてはならないでしょう。

祖国の統一を妨げる勢力は民族内部にもあります。

このたび汎民族大会が開かれてりっぱな結実をもたらすまでの過程は順調なものではありませんでした。8 月 15 日を契機に板門店で祖国統一のための汎民族大会を招集することについて、北と南、海外の広範な人民と愛国的人士は熱烈に支持しましたが、祖国の統一を望まない分裂主義者は大会を破綻させようと各方面にわたって策動しました。南朝鮮当局者は汎民族大会の招集期日が迫った 7 月 20 日に、8 月 15 日の前後 5 日間を「民族大交流」期間にするという「特別発表」をし、「訪北申請者受付」だの、「名簿交換」だのと鳴り物入りで宣伝しました。かれらは 6 万名の「訪北申請者」を受け付けたとし、その名簿をわれわれに引き渡すといいました。わずか 5 日のあいだに板門店を通って 6 万名の人が北を訪れるというのもむずかしいことですが、南朝鮮当局者には「訪北申請者」を北へ送る意思もありませんでした。現実的に南朝鮮当局者は、汎民族大会に参加するため北に来ることを申請した南側代表を 1 人も送りませんでした。南朝鮮当局者は、われわれがすでに招請したことがあり、「民族大交流」期間に平壌訪問の意思を表明した白基琓（ペクキワン）先生の北上路も遮断しました。結

局、南朝鮮当局者の「民族大交流」案は、なんとしてでも汎民族大会を破綻させ、北南間の自由往来と全面開放を要求する内外の世論を鎮静させる術策にすぎませんでした。

内外の分裂主義者の妨害策動によって、祖国統一の前途には少なからぬ障害と難関が横たわっています。しかし、わが国の統一は必ず実現されるでしょう。

北と南、海外の同胞は自信をもってかたく団結し、祖国統一を促進する民族あげての闘争に決起しなければなりません。

祖国の統一を実現するためには、自主、平和統一、民族大団結の3大原則を堅持しなければなりません。

祖国統一の 3 大原則は、北と南が共同で合意し、内外に宣言した民族共同の統一綱領です。

わたしは、1972 年に北南間の高位級政治会談に参加した南側の代表と会った席上で、統一問題解決の基礎となる根本原則を提示しました。わたしはかれに、祖国統一は、第一に、外部勢力に頼ったり外部勢力の干渉を受けることなく自主的に実現すべきであり、第二に、武力行使によらず平和的方法で実現すべきであり、第三に、思想と理念、体制の相違を超越して民族の大団結をはかる原則で実現すべきだと話しました。南側の代表は、この三つの原則を即座に受け入れました。

われわれはその後、南側と祖国統一の 3 大原則を合意し世界に宣言する問題を合議するため、わが方の代表をソウルに派遣しました。そのとき南朝鮮当局者は、わが方の代表に会った席で、われわれの示した祖国統一の 3 大原則に賛成するとはいいながらも、ただちに発表する問題は少々検討を要するといいました。おそら

くかれは、アメリカ人と合議しようとしたようです。結局、北と南はわれわれが示した祖国統一の 3 大原則を正式に合意し、7 月 4 日にはついに祖国統一の 3 大原則を基本内容とする南北共同声明を世界に発表しました。

7・4 南北共同声明が発表されたのち、南朝鮮から幾人もの代表が再びわれわれを訪ねてきました。わたしはかれらと会って話し合ったとき、北と南が対決するのではなく、団結し合作すべきだと話しました。わたしはかれらに、いま南朝鮮で「セマウル運動」を進めているそうだが、農民の生活問題を実質的に解決すべきであって、日本からプラスチック・プレートを輸入してわらぶき屋根をふきかえるからと「セマウル運動」になるわけではない、農民によい暮らしをさせるためには灌漑工事をして農業実績をあげるべきだ、われわれには灌漑建設の経験が豊富であるから技術と資材を提供し、そちらからは労働力を出して南朝鮮で灌漑工事をしようといいました。わたしはまた、漁獲でも合作しよう、新(シン)浦(ポ)沖は北からの寒流と南からの暖流の合流水域なので魚類が豊富だ、南朝鮮の漁民がこちらの漁場へ来て自由に漁獲ができるようにしようといいました。わたしは鉱山も共同で開発しようといいました。わたしはかれらに、共和国北半部には地下資源がたくさんある、あなたがたは、遠い外国から鉄鉱石を輸入しようとせず、北半部に来て鉄鉱石を採掘するようにといいました。かれらは北と南が合作するというわれわれの提案を聞いて望ましい提案だとし、帰って報告すれば「大統領」も歓迎するだろうといいました。しかし、かれらは南朝鮮に帰っては、北は労働力が不足しているので南朝鮮の人を引き入れようとしているだの、かれらを連れて

いって「赤化」しようとしているなどと、でたらめなことをいいました。

自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則は、朝鮮民族の念願と意思にそって祖国の統一を実現するもっとも正当な綱領です。

外部勢力の干渉を受けることなくわれわれ朝鮮人が主人となって祖国を統一しよう、民族同士でたたかわず平和的に祖国を統一しよう、共産主義者であれ民族主義者であれ宗教者であれ、区別せず全民族が団結して祖国を統一しよう、ということには誰も反対できません。われわれの示した祖国統一の 3 大原則はこんにちもかわることなく、祖国統一運動の指針、民族共同の統一綱領となっています。

朝鮮民族は必ず、自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則にもとづいて統一を実現しなければなりません。

われわれは祖国統一問題の解決で、外国の方式をまねようとしてはなりません。なにごとであれ、他人のやり方をそのまままねてはことを仕損じます。

われわれは革命闘争と建設事業を指導する全過程で、つねに主体性を確立し、すべてのことをわれわれの方式でおこないました。

わたしがよく話すことですが、解放後、新しい社会の建設で最大の難題となったのは民族技術幹部の不足でした。日本帝国主義植民地支配の時期に、朝鮮人は技術を学ぶにも学ぶことができませんでした。当時、北朝鮮には大学が一つもなかったし、日本人は朝鮮人に技術を教えませんでした。機関車などにしても、日本人が運転し、朝鮮人にはかまたきしかさせませんでした。日本帝国主義支配の後遺症として、解放後わが国には技術系の大学を出

た人がわずか 10 名余りしかならず、機関車の運転ができる人も数人しかいませんでした。

　インテリ問題を正しく解決するかいなかは、新しい社会を成功裏に建設できるかどうかというきわめて深刻な問題として提起されました。もちろん、朝鮮革命の基本原動力は労働者階級と農民です。しかし、労働者階級と農民だけでは革命と建設を成功裏に進めることができません。革命闘争と建設事業において、インテリは労働者、農民に劣らず重要な役割を果たします。そのためわれわれは党を創立するとき、労働者、農民とともにインテリを朝鮮革命の原動力として位置づけました。わが党のマークにはハンマーと鎌と筆が描かれていますが、これはわが党を構成している労働者、農民、勤労インテリを象徴しています。

　われわれがインテリを革命の原動力とすることについて反対する人もいましたが、われわれは誰がなんといおうとわれわれの方式でやることを決心し、インテリ問題を解決する積極的な対策を立てました。われわれは各地にちらばっていたインテリを集めるようはからいました。そのとき、南朝鮮からも少なからぬインテリがわれわれを訪ねてきました。かれらは、李承晩はアメリカの手先になっているが、金日成（キムイルソン）将軍は国を解放し自主的に新しい社会を建設している、国を愛する人はみな金日成将軍のいるところに行くべきだ、といって、われわれを訪ねてきました。そのとき、南朝鮮からは学者だけでなく、芸術家も多くやってきました。われわれは全国各地から集まってきたインテリを中心にして平壌に専門学校を設け、金日成総合大学も創設しました。われわれはまた、鉄道運輸部門で金会日（キムフェイル）運動を起こして鉄道輸送を発展させる

一方、多くの機関士を育てました。

われわれは事実上ゼロから出発しましたが、現在ではわれわれ自身が養成した約 150 万のインテリ大集団をもつようになりました。かれらはいま 40 代、50 代、60 代の働き手として、社会主義建設のために昼夜をわかたず馬力を出して働いています。われわれはこのようなインテリ大集団をもっているので、決心さえすればなんでもできます。150 万のインテリ大集団をもっているのは朝鮮人民のもっとも大きな財産であり、大きな誇りです。こんにちの現実は、インテリ問題をわれわれの方式で解決してきたわが党の政策がきわめて正当であることを明白に実証しています。

われわれは民主主義革命と社会主義革命もわれわれの方式でおこない、社会主義建設もわれわれの方式で進めています。われわれが革命と建設をわれわれの方式でするからと、外国の経験を参酌しないのでないのはもちろんです。外国のりっぱな経験は取り入れましたが、それを機械的に取り入れはしませんでした。わたしはつねづね幹部たちに、外国の経験も学ぶべきだが、それがわが国の実情と革命の利益に合致するかどうかを十分に検討すべきだ、他人のものは噛んでみて口に合えば飲み下し、合わなければ吐き出すべきだと話しています。われわれの幹部はこのような自主的な革命精神で教育されたので、なにをするにしても他人に依存したり頭からまねるのではなく、自分の力を信じわが国の具体的実情に即して創造的に働いています。

祖国統一問題を朝鮮民族の要求とわが国の実情に合わせてわれわれの方式で解決する道は、まさに自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則にもとづいて高麗（コリョ）民主連邦共和国を創立することだと

思います。

いま南朝鮮では、「全民連」と「全大協」をはじめ、進歩的な団体と広範な人民が自主、民主、祖国統一のスローガンをかかげてたたかっていますが、このスローガンはきわめて正当なものです。自主は南朝鮮にたいするアメリカの支配を終わらせ、南朝鮮社会を自主化するということであり、民主は軍事ファッショ独裁に反対し、南朝鮮社会を民主化するということであり、祖国統一は北半部の共産主義者と連合して平和的に祖国を統一しようということです。北と南は互いに食ったり食われたりしてはならず、また民族同士で内乱を引き起こす必要もありません。祖国を平和的に統一するためには、北と南が連合する道以外に他の方途はありません。

われわれの連邦制統一方案は南朝鮮人民も支持し、海外同胞も支持しています。

昨年、南朝鮮の民主人士文益煥（ムンイクファン）牧師が平壌に来たとき、わたしはかれとの話し合いでわれわれの高麗民主連邦共和国創立方案について説明しました。わたしはかれに、現在北には社会主義制度が存在し、南には資本主義制度が存在しているが、われわれは南朝鮮に社会主義制度を強要しない、われわれの高麗民主連邦共和国創立方案は北と南に存在する二つの制度を共存の原則で存続させ、北と南が同等に参加する最高民族連邦会議とその常任機構である連邦常設委員会を設け、そのもとで北と南の地域自治制を実施することを予見している、統一国家の首班は大統領か主席、または議長とし、北と南がそれぞれ 1 年ずつの輪番制にすることができる、連邦国家は他の国の衛星国にならず、中立国として自

主的に進むべきだと話しました。文益煥牧師はわたしの話を聞いて、連邦制統一方案は非常にりっぱな統一方案だといいました。わたしと文益煥牧師のあいだでは祖国統一問題についての見解が一致したので、長い談話をする必要がありませんでした。

文益煥牧師が帰るとき、わたしは宿所を訪ね、いま南朝鮮当局者はあなたを逮捕するといっているが、帰っても大丈夫だろうかと聞きました。かれは、おそらく数か月は獄につながれることになるだろうといいました。南朝鮮当局者は文益煥牧師が帰るやいなや空港で逮捕、拘禁し、7 年間の懲役刑を言い渡しました。70 を越した高齢者に 7 年間の懲役刑を科したのは結局、獄中で死に絶えろというにひとしいものです。文益煥牧師にそのような過酷な刑を科したのをみても、南朝鮮当局者は残忍きわまりないやからです。

われわれは、南朝鮮にわれわれの思想と体制を強要しようとはしません。ある一方の思想と体制を他方に強要しては、北と南を統一することができません。もしわれわれが南朝鮮にわれわれの思想と体制を強要するならば、民族の和合と統一を実現することができないばかりか、かえって祖国統一を妨げる勢力が多くなるでしょう。現在南朝鮮には、アメリカと日本、フランス、西ドイツ、カナダなど多くの外国資本が導入されています。われわれが南朝鮮に社会主義制度を樹立しようとするなら、南朝鮮に資本を投資した資本家がわれわれに反対するはずであり、また南朝鮮の民族資本家もわれわれに反対するでしょう。

連邦制形式の統一国家は中立国になるべきです。地理的にみて、わが国はソ連、中国、日本など大きな国のあいだに位置していま

す。ソ連と中国は社会主義国であり、日本は資本主義国です。相異なる思想と体制の北と南の両地域を一つに統一する状況のもとで、連邦国家は社会主義国であるソ連や中国の衛星国になってもならず、資本主義国である日本やアメリカの衛星国になってもなりません。連邦国家は中立国となって自主的な発展をとげなければなりません。

統一された連邦国家が中立国になるべきだということについては、外国人も支持しています。元オーストリア首相のクライスキーが数年前に訪朝しましたが、かれはわたしに、統一された朝鮮が中立国になることには全的に賛成だといいました。かれは自国を中立国にしたときの経験を語り、中立国にするのは容易なことでないといいました。そして、レーガンがアメリカ大統領のポストについているかぎり朝鮮が統一されて中立国になるのはむずかしいと思う、今後柔軟な政策を実施できる人がアメリカ大統領に当選すれば情勢が多少変わるだろうといいました。それでわたしは、今後誰がアメリカ大統領になろうと、われわれは自分の力で祖国を統一し、中立国にするつもりだと話しました。

わが国が統一後、中立国になることについて、ソ連と中国は賛成するでしょう。日本も内心はどうであれ、公然とは反対できないでしょう。うまくすればアメリカも賛成するようにさせることができると思います。このたび汎民族大会に参加した在米同胞が帰ったらアメリカ人に、われわれが南朝鮮を決して共産化しようとしないし、南朝鮮に投資したアメリカ資本を侵害せず、連邦国家を創立して中立化しようとしていることを正しく認識させるのがよいと思います。

高麗民主連邦共和国を創立して祖国の統一を実現するためには、分裂主義者の「二つの朝鮮」策動を阻止、破綻させなければなりません。

いま南朝鮮の一部の人は、一国には一つの体制しかありえないとし、一方の体制を他方に延長する方法で統一するという「体制統一論」を主張しています。これはわが国の実情では現実性がありません。われわれは、共和国北半部に樹立した社会主義制度を誰にも譲歩する考えはありません。「体制統一論」は本質において、国の分断を恒久化して「二つの朝鮮」にすることです。

われわれは祖国統一運動において、内外の分裂主義者の「二つの朝鮮」策動に反対してたたかうことを最優先的な課題としなければなりません。もしわれわれが「二つの朝鮮」をつくりあげようとする分裂主義者の策動を許すなら、民族の分裂を固定化させ、南朝鮮を永久にアメリカの植民地にゆだねる結果をまねくでしょう。そうなれば、われわれは歴史にたいし罪を犯すことになります。われわれはこれからも、「朝鮮は一つだ」というスローガンを高くかかげて進むべきです。

祖国統一偉業を実現するには、民族あげての広範な統一戦線を結成し、かたく団結してたたかわなければなりません。

祖国の統一は全民族の宿望と要求を実現する民族あげての偉業であり、統一運動の主体は全朝鮮民族です。祖国を統一するためには、北に住もうと南に住もうと海外に住もうと全同胞が統一運動に決起すべきであり、思想と理念、政見と信教の違いにかかわりなく各階層の全同胞が民族大団結の原則でかたく結束しなければなりません。階級や階層の要求と利益より、当然、民族共同の

要求と利益を上位におくべきであり、祖国統一偉業にすべてを服従させなければなりません。

われわれは国土が分断された当初から、全民族の力を合わせて祖国を統一しようと主張してきました。解放直後、われわれとは思想と政見の異なる数多くの南朝鮮の人士が、われわれの呼びかけに呼応して民族の団結と祖国統一のためにりっぱにたたかいました。呂運亨（リョウンヒョン）先生はわれわれと手をとりあって祖国統一のためにたたかい、敵に暗殺されました。かれは数回にわたってわれわれを訪ねてきましたが、あるとき自分の子どもを将軍に送るからよく面倒をみてほしいといいました。われわれは呂運亨先生との信義を守って子どもを預かり、2 人の娘は外国へ留学もさせました。

われわれは解放後、新しい民主朝鮮の建設も愛国的民主勢力を結集し、全人民の団結した力で進めました。解放直後、わたしは平壌歓迎市民大会での演説で、力のある人は力で、知識のある人は知識で、金のある人は金で建国事業に貢献すべきであり、祖国を愛し、民族を愛し、民主を愛する全民族がかたく団結して民主主義自主独立国家を建設しようとアピールしました。そのときの演説は凱旋門のそばの碑に刻まれていますが、みなさんが見るのも悪くないと思います。

われわれは祖国統一を願う各階層のすべての人と団結する考えです。祖国の統一を支持する人であれば、南朝鮮の資本家とも団結しようと思います。われわれは民族の利益に背いた親米派と親日派、そして外部勢力と結託して祖国の統一を妨げる買弁資本家に反対するのであって、民族資本家には反対しません。

自主と統一を望む朝鮮人であるなら誰であれ民族大団結の旗のもとに団結すべきであり、力のある人は力で、知識のある人は知識で、金のある人は金で祖国統一偉業に貢献すべきです。

わたしはここに列席した代表のみなさんが、今後、民族大団結の旗、祖国統一の旗をさらに高くかかげて献身的にたたかい、誰もが朝鮮の真の愛国者、祖国統一の闘士になるよう望みます。

海外の朝鮮同胞が祖国統一偉業に寄与するためには、祖国についてよく知り、祖国と民族にたいする誇りと自負をいだくことが必要です。

海外同胞のなかには、長いあいだ外国に住んだため朝鮮語をよく知らない人もありえますが、たとえ言葉は知らなくても朝鮮人の魂を失ってはならず、決して祖国を忘れてはなりません。

祖国の人民はこれまでわが党の指導のもとに、自力更生の革命精神をもって刻苦奮闘し、朝鮮式の社会主義社会をりっぱに建設しました。チュチェ思想が具現されたわが国では、人民大衆が国家と社会の真の主人となっており、社会のあらゆるものが人民大衆に奉仕しています。わが国では全人民が党のまわりに一心同体となってかたく団結しており、すべての人が食・衣・住の心配を知らず、貧富の差もなくひとしく幸せな生活を営んでいます。人民は文化の創造者、享受者として自分の知恵と才能を十分に発揮しており、豊かな文化・情操生活を存分に享受しています。

わたしはこの 8 月 15 日に幼稚園の子どもらの芸術総合公演を見て、それをみなさんに観覧させるようにといいました。公演に出演した園児たちはみな労働者、農民の子どもですが、かれらの芸術的技量は相当なものです。西ドイツの女流作家ルイズ・リン

ザと一緒に公演を見ながらも話したことですが、子どもたちの芸術的才能がこのように開花するのは社会主義制度でのみ可能です。資本主義社会ではそうできません。資本主義社会では、金持ちの子どもは芸術を学ぼうと一所懸命に努力しないだろうし、貧しい家庭の子どもは芸術を学ぶにも学ぶことができないでしょう。しかし社会主義制度では、すべての子どもが自分の才能を十分に伸ばせる道が広く開かれています。わが国では、子どものためなら何一つ惜しみません。園児たちの芸術総合公演に出演した四つ子の場合にしても、国家ではその子らをりっぱに育てるために 2 階建ての独立家屋を建てて提供し、担当の教養員と医師をつけて面倒をみています。

朝鮮人民は実際の生活体験を通じて、朝鮮式社会主義が資本主義とは比べられないほどすぐれていることを深く感じています。

資本主義世界ではアメリカが発達しているといいますが、アメリカは貧富の差、社会的不平等がひどく、社会悪がはびこる腐りきった国です。アメリカでは富者は豪奢な生活をしている反面、飢えている人が多く、住宅がなくて街をさまよう人もたくさんいます。殺人、強盗、麻薬常習者、アルコール中毒者がいちばん多い国もほかならぬアメリカです。エイズがいちばんまんえんしている国もアメリカです。アメリカ式民主主義は人民大衆のための民主主義ではなく、少数特権層のための民主主義です。この席にはアメリカから来た同胞もいますが、アメリカの現実についてはわれわれよりみなさんのほうがよく知っているはずです。アメリカに幻想をいだき、アメリカ式民主主義を模倣するのは愚かなことです。

最近、一部の社会主義国で不測の事態が起こるや、アメリカ帝国主義者は国際舞台でいっそうおごりたかぶり、傲慢無礼な行動をしています。かれらは国際憲兵として、世界を牛耳ろうとしています。

いまアメリカをはじめ帝国主義者は、わが国でも他の国でのような自由化の風が吹き動乱が起こることを望んでいますが、わが国ではそんなことはないでしょう。

チュチェの社会主義祖国は堅固です。わが国は、領袖、党、大衆が一心団結しているので、いかなる風が吹き荒れてもびくともしません。朝鮮人民は自分の力で朝鮮式の社会主義を建設したことに高い誇りをいだいており、チュチェの社会主義祖国をあくまで守りぬく決意をかためています。

わたしはみなさんも、チュチェの社会主義祖国を守るために、祖国の自主的平和統一を促進するために積極的に努力するものと信じます。

わが民族の大団結をなし遂げよう

祖国平和統一委員会の責任幹部、祖国統一汎民族
連合北側本部メンバーとの談話
（1991 年 8 月 1 日）

昨年、祖国解放 45 周年を契機に催された祖国の平和と統一のための汎民族大会についで、今年再び、8・15 を契機に第 2 回汎民族大会が催されることになりました。祖国が解放された意義深い日を迎えて、汎民族大会とさまざまな民族共同の統一祝祭を催すのはよいことだと思います。われわれは、このたび予定されている行事が成功裏におこなわれ、民族の大団結をなしとげ、祖国の統一を促進するうえで重要な契機となるよう積極的に努力すべきです。

わが国の統一問題は、人為的に分裂した民族の血脈をつないで民族の和合をはかる問題であり、全国的範囲で民族の自主性を実現する問題です。いいかえれば、祖国統一の問題は、わが同胞の運命にかかわる問題であり、朝鮮民族の生命にかかわる問題です。

周知のとおり、わが国の分断は朝鮮民族内部の矛盾によってもたらされたのでなく、もっぱら外部勢力によって強要されたのです。第 2 次世界大戦の終結後、朝鮮問題がわが民族の自主的要求と意思に反して列強の利害によって処理され、アメリカが南朝鮮を占領した結果、わが国は北と南に分断されました。朝鮮の統一

がこんにちまで実現されず遅延しているのも、外部勢力の干渉と妨害策動がつづいているためです。

わたしは国が分断された以後の半世紀間、一日として朝鮮民族の不幸と災難について忘れたことがなく、わが祖国の統一について考えなかった日がありません。祖国統一の課題を次代に受け継がせてはなりません。われわれは必ず、われわれの世代に祖国を統一しなければなりません。祖国を統一するのは全朝鮮民族の最大の願いであり、わが民族にとって祖国を統一することよりさし迫った課題はありません。

わが国の統一は必ず自主的に、平和的に実現すべきであり、そのためには全民族の大団結をなしとげなければなりません。祖国を自主的に、平和的に統一する問題は、朝鮮民族の大団結をぬきにしては考えられません。民族の大団結は、祖国の自主的平和統一の根本的前提であり、また本質的内容をなしています。祖国統一偉業の実現において一にも二にも三にも重要なのは、朝鮮民族の大団結をなしとげることです。

いかなる運動においても、主体を強化し、その役割を高めてこそ、勝利することができます。これは革命のもっとも大切な真理であり、長期にわたる革命闘争の過程で信念となったわれわれの哲学です。

祖国統一の主体は全朝鮮民族です。祖国の統一はわが民族の自主的偉業であり、祖国の統一を実現する力は朝鮮民族の主体的力量です。朝鮮民族は誰もが祖国統一の主人であり、したがって、祖国統一をめざす闘争で主人としての責任と役割を果たさなければなりません。朝鮮民族が祖国統一の主体としてその責任と役割

を果たすためには、一つにかたく団結しなければなりません。主体の偉力はほかならぬ団結の偉力なのです。全民族が一つにかたく団結して統一の主体を強化するところに、祖国を自主的に、平和的に統一する決定的な保証があります。

全朝鮮民族は、民族大団結の旗のもとに、祖国愛と民族自主精神にもとづいてかたく団結すべきです。

民族は歴史的に形成され発展してきた、人びとの強固な集団であり、社会生活の単位です。人びとは歴史的に国家と民族を単位にして生活を営み、共同で運命を開いてきました。民族問題は本質において、民族の自主性を擁護し実現する問題です。自主性は人間の生命であると同時に、国と民族の生命です。人間が自主性を失えばしかばね同然であるように、民族も自主性をぬきにしては、その存在と発展について考えることができません。

国と民族の自主性が実現されてこそ、個々の人間の自主性が実現されるのであり、国と民族が他国に従属すれば、誰であれ亡国の民の境遇をまぬがれることができません。それは、国と民族の生命のなかに民族の一員としての個人の生命があるからです。こういう理由からして、民族は異なる階級と階層からなっていても、人びとは祖国を愛し、民族の自主性を貴び、国と民族の自主性のために団結してたたかうのです。人びとが自分の祖国を愛し、自民族の自主性を貴ぶのは、民族の一員としてもつようになる共通の思想・感情です。

そもそも、民族主義は民族の利益を擁護する進歩的思想として発生しました。新興ブルジョアジーが民族主義の旗をかかげて民族運動の先頭に立ったのは確かですが、だからといって、民族主

義が最初から資本家階級の思想であったとみることはできません。封建主義に反対するブルジョア民族主義運動の時期には、人民大衆の利益と新興ブルジョアジーの利益が基本的に合致し、したがって民族主義は民族共通の利益を反映していました。その後、資本主義が発展し、ブルジョアジーが反動的支配階級となってからは、民族主義は資本家階級の利益を擁護する思想的道具となりました。ブルジョア民族主義は、心から民族の利益を擁護する真の民族主義とは相反する思想です。民族の寄生虫といえる無為徒食のやからが民族主義を唱えて民族主義者を自称するのは、一つの欺瞞にすぎません。精神労働であれ肉体労働であれ、自民族のために有益なことをする人であってこそ、真の民族主義者となれるのです。

単一民族国家であるわが国において、真の民族主義はすなわち、愛国主義につながります。長い歳月、同じ領土で同じ血筋を引き、一つの言語をもって輝かしい民族文化を開花させてきた朝鮮民族は、愛国心が強く、自主精神が高い民族です。朝鮮人民はつねに祖国を熱烈に愛し、国と民族の自主性を守るため力強くたたかってきました。これは朝鮮民族の誇るべき伝統です。

わたしの父は、早くから「志遠」の思想を示し、わたしたちを愛国主義思想、民族自主思想で教育しました。それでわたしは、最初から国と民族の運命を救うため一生をささげる覚悟でたたかいの道に立ちました。わたしの革命活動は民族解放闘争からはじまったのであり、民族の主体、革命の主体をうち立てるためにたたかう過程で、朝鮮革命の指導思想であるチュチェ思想を創始しました。わたしはこんにちまで一生、朝鮮民族の自主独立と繁栄

のために、人民大衆の自主性のためにたたかってきました。いうまでもなく、わたしは朝鮮人民の自主性だけでなく、世界諸人民の自主性をともに擁護し、わが国のみでなく世界的範囲で人間による人間の搾取と抑圧をなくすためにたたかっています。自分の父母兄弟を愛することのできない人が国と民族を愛せるとは考えられないように、自民族の運命に無関心な人が世界革命に忠実であろうはずはありません。わたしがつねに話していることですが、真の愛国者であってこそ、世界革命に忠実な真の国際主義者になれるのです。そういう意味で、わたしは共産主義者でありながら、愛国者であると同時に国際主義者であるといえます。

国と民族を基本単位にして人民大衆の運命が開かれていく歴史発展の現段階では、当然、民族の主体を確立し、民族共通の利益と繁栄のために全民族が団結してたたかうべきです。われわれは民族の大団結にもとづいて祖国の統一を実現するだけでなく、祖国の統一後も、全民族の統一団結した力によって人民の理想社会を建設し、この地で全人民がともに限りない幸福を享受できるようにすべきです。

自主性を民族の生命とし、全民族が団結して民族の自主性を擁護し実現し、民族共同の繁栄を築くというのが、われわれの主体的民族観だといえます。

われわれは、帝国主義に反対する闘争においても、社会主義を建設する闘争においても、つねに人民の団結した力を信じ、それに依拠する原則を堅持してきました。民族の利益を第一とし、人民の団結した力に依拠してたたかったところに、われわれがこれまでの革命と建設で勝利をおさめた要因があるといえます。

祖国の解放をめざす抗日革命闘争でわれわれが勝利をおさめたのは、抗日遊撃隊と人民が血縁的に結びつき、すべての反日愛国勢力がかたく団結してたたかったからです。われわれは抗日革命闘争の時期、各階層の愛国的人民を反日民族統一戦線に結集し、民族の団結した力をもって日本帝国主義と戦いました。

1936 年に結成された祖国光復会は、日本帝国主義に反対し、国の独立を志向する広範な愛国的人民を結集した反日民族統一戦線組織でした。祖国光復会には、共産主義者と民族主義者、労働者、農民、知識人、青年学生、そして良心的な民族資本家と宗教家をも含めた各階層の反日愛国勢力がすべて結集しました。広範な反日民族統一戦線に依拠して抗日革命闘争を展開する過程で、民族団結の伝統が築かれました。

われわれは解放後、新しい社会を建設するたたかいにおいても、民族の大団結をなしとげることに主力をそそぎました。わたしは祖国の解放をなしとげた後に人民におこなった演説で、国と民族を愛し、民主を愛する全人民が一つにかたく団結して、力のある人は力で、知識のある人は知識で、金のある人は金で、建国事業に積極的に貢献するよう呼びかけました。われわれは各階層の人民の団結した力に依拠して、民主的な新しい祖国の建設と社会主義建設を力強くおし進めました。社会主義を建設する目的は、搾取と抑圧のない社会で全人民がともに幸せで誇りある生活を営めるようにすることにあります。われわれが建設する社会主義社会は、文字どおり人民大衆中心の社会主義です。人民大衆中心の社会主義というのは、全人民が国の主人となり、社会のすべてのものが人民大衆に奉仕する、真の人民の社会であるという意味です。

人民大衆に奉仕しない社会主義は建設する必要がなく、また、人民大衆の団結をなしとげずには、人民大衆中心の社会主義は建設できません。

われわれが祖国を統一しようとするのも、朝鮮民族の自主性を実現し、民族共同の発展と繁栄をもたらし、全朝鮮民族が統一した一つの祖国で、ともに幸せで誇りをもって暮らせるようにするためです。それゆえ、祖国を統一するたたかいで全民族が心を合わせ、一つに団結するのは当然なことであり、またそれは十分実現できることです。

1948 年に平壌（ピョンヤン）で南北朝鮮の政党、大衆団体の代表者連席会議が開かれましたが、われわれは当時、民族にとって切実な問題として提起されていた当面の救国対策と祖国統一の問題を討議するためにこの会議を招集しました。会議には、南朝鮮から李承晩の直系政党を除いては、ほとんどすべての政党、大衆団体の代表が参加しました。「韓国独立党」の党首であった金九（キムグ）も会議に参加しました。金九についていえば、かれは解放前、「上海臨時政府」にいて共産主義者を敵とみなしていた人ですが、民族の運命にかかわる重大な問題について、同じ民族として一堂に会して虚心坦懐に討議しようというわれわれの正当な提案に共感して会議に参加し、結局、連共連合の道に立ちました。金九は、真の共産主義者がどういう人間であるか知らなかったのですが、国と民族を愛する愛国者でした。かれは南北連席会議でりっぱな演説をし、南朝鮮に帰ってからも民族の団結と祖国統一のためにたたかい、アメリカとその手先によって暗殺されました。歴史的な 4 月南北連席会議は、思想と理念が異なり、政見と信教に違いがあっても、

民族共同の偉業をめざす闘争においては、誰でも団結できるということをはっきりと示しました。

朝鮮民族の自主偉業を実現する道で築きあげた民族団結の伝統と経験を生かし、全民族が和合し団結してたたかうならば、民族至上の課題である祖国の統一は必ず実現することができます。

全民族が和合し一つに団結するならば、それがすなわちわれわれの願っている祖国の統一です。祖国を統一するうえで基本となるのは、手順や方法上の問題ではなく、全民族の真の和合と団結をなしとげることです。北と南の全人民と海外同胞が心を一つに合わせ、それにもとづいて民族の大団結をなしとげるならば、祖国統一の実現で基本問題が解決されることになり、この問題が解決すれば、他の諸問題は容易に解決されるでしょう。

最近、民族の団結をはかる活動にはかなりの前進がみられます。昨年は、8・15 汎民族大会の開催についで汎民族統一音楽会が開かれ、北と南の統一サッカー競技と芸術祭もおこなわれ、今年は、北と南が単一チームを組んで世界卓球選手権大会とワールド・ユース・サッカー選手権大会に共同で出場しました。これはすべて、朝鮮民族の統一への熱望がかつてなく高まり、民族の和合と団結の気運が高まった結果としてもたらされたものであり、これに北と南、海外の同胞はともに喜びを感じ、民族的誇りと自負を感じました。このように全同胞の心がしだいに一つになれば、結局、全民族の大団結がなしとげられ、祖国の統一は実現されるでしょう。南朝鮮の文益煥（ムンイクファン）牧師が、もはやわが民族は統一された、統一は完了形である、と語ったのも、こういう意味で語ったことだろうと思います。

われわれが一つの民族、一つの国家、二つの体制、二つの政府にもとづく連邦制方式の祖国統一方案を主張するのも、真の民族の和合と統一を実現するためです。わが国の北と南に異なる思想と体制が存在している状況のもとで、民族の和合と統一をなしとげる道は、連邦制方式以外にありません。わが国の現状において、一方が他方を併呑する方法で統一を実現しようとするのは間違っています。思想と体制は誰かの強要によってではなく、人民がみずから選択すべき問題です。一方が他方に思想と体制を強要する方法では、民族の統一を実現することができないばかりか、かえって民族内部の対立を激化させ、新たな民族的災難をまねくことになるでしょう。民族内部の思想と体制の違いは、強制的方法でなく、民族共通の利益にもとづき民族の団結を強める方法で徐々に克服していかなければなりません。こんにち、もっとも切実な民族共通の利益は、外部勢力の支配と干渉から完全に脱し、民族の統一をなしとげることです。民族内部の思想と体制の違いがあっても、一つの民族として統一を実現することができ、民族共同の繁栄のために互いに協力することができます。

朝鮮民族は北と南、海外のどこに住もうと、また、労働者、農民、知識人、青年学生、政治家、経済人、宗教家、軍人を問わず、すべての人が民族共同の偉業である祖国統一の実現をめざし、団結してたたかうべきです。朝鮮人民がかつて新しい祖国を建設するときにそうしたように、北と南、海外の各階層のすべての同胞が団結し、力のある人は力で、知識のある人は知識で、金のある人は金で、祖国統一の偉業に貢献しなければなりません。

労働者と農民、インテリは民族の基本的力量です。労働者、農

民、インテリがそれぞれ自己の特色を生かしつつ、協力し団結するなら、民族の強力な自主的主体をなし、祖国統一の偉業を成功裏に遂行することができます。労働者、農民はインテリと力を合わせ、インテリは労働者、農民と運命を一つにすることによって、祖国の統一をめざすたたかいで主体としての役割を果たすべきです。インテリの役割を過小評価したり、かれらに偏狭な態度をとるのは間違っています。われわれは党を創立するとき、労働者、農民とともに、インテリをわが党の構成部分の一つと規定しました。わが党のマークにはハンマーと鎌と筆が描かれていますが、これはわが党を構成している労働者、農民、勤労インテリを象徴しています。われわれは解放後、新しい社会の建設に着手したとき、日本帝国主義に奉仕したからといってインテリを排斥したのでなく、かれらの愛国心と民族自主精神を信じ、積極的に包容しました。われわれは全国各地に散らばっていたインテリを国の宝とみなし、一人ひとり探しだして、新しい祖国の建設で重要な役割を果たすよう積極的に動員しました。わが国のインテリはわが党を信頼して慕い、党と運命をともにしてきました。かれらは新しい民主朝鮮の建設にその力と才能のすべてをささげただけでなく、アメリカ帝国主義の侵略に抗する祖国解放戦争（朝鮮戦争）にも参加してりっぱに戦い、戦後の社会主義革命と社会主義建設でも重要な役割を果たしました。

こんにち、南朝鮮のインテリも祖国の統一をめざしてりっぱにたたかっています。南朝鮮の青年学生は熱烈な愛国精神と不抜の反米・自主精神をもち、南朝鮮社会の自主化と民主化、祖国の統一をめざすたたかいで中核的かつ先導的な役割を果たしています。自主、

民主、祖国統一のために貴い青春をなげうって英雄的にたたかっている南朝鮮の青年学生は、朝鮮民族の誇りとなっています。

南朝鮮には労働者、農民、インテリとともに、生活の経緯と生活条件を異にする人びとが少なくありませんが、そうした人びとも軽視してはなりません。われわれは、民族反逆者以外はすべての人を包容する原則で民族の団結をなしとげなければなりません。

宗教にたいする正しい理解をもち、宗教家との活動に力を入れることがきわめて重要です。人間が宗教を信じるのは、多くの場合、現世における苦痛と不幸を宿命的なものとして受け入れ、来世にでも幸せに暮らしたいという念願からです。ですから、宗教を信じる人を悪いとはいえません。悪いのは、人びとをして現実の生活に幻滅を感じさせる反人民的な政治であり、人民の自主意識を麻痺させ、自分の支配に従わせる手段として宗教を悪用している反動支配層です。進歩的な宗教家は、人びとが愛し合ってむつまじく暮らすことを願っています。こんにち南朝鮮の宗教家は、外来侵略者がわが民族を人為的に分裂させ、統一を要求する人びとを銃剣をもって弾圧するのに反対しています。われわれは南朝鮮の宗教家が祖国統一のために献身していることを高く評価すべきであり、かれらと団結しなければなりません。

南朝鮮で、民族の息子、娘である青年が「国軍」に入隊して、アメリカ軍の指揮のもとにアメリカの新植民地主義的支配と民族分裂政策の道具として奉仕しているのは、胸の痛むことです。「国軍」の将兵が帝国主義者とその手先の反民族的かつ反人民的な正体をはっきり見ぬくよう、目覚めさせなければなりません。そうして、かれらが自民族と人民の側に確固と立ち、自主、民主、

祖国統一をめざす道を父母兄弟とともに歩むようにすべきです。

わたしがつねに述べていることですが、統一は愛国であり、分裂は売国です。朝鮮民族として祖国の統一を願い、祖国統一のために努力する人は愛国者であり、外部勢力と結託して祖国統一に反対し、分裂を追求する人は売国奴です。こういう基準で、祖国統一を支持する人とはみな団結し、一つの隊伍で進まなければなりません。一時は祖国の統一に反対し、国と民族にたいして罪を犯した人であっても、過ちを反省し、祖国の統一をめざす愛国の道に立つなら、過去を問わず団結しなければなりません。

かつて民族に顔向けできない生き方をしてきた人のなかには、過去と決別して民族の団結と祖国統一をめざす愛国の道に踏み切った人が少なくありません。崔徳新（チェドクシン）先生はそういう人の一人です。周知のとおり、崔徳新先生はかつて南朝鮮で「国軍」の軍団長をつとめ、「外務部長官」の職にもあった人です。かれは南朝鮮の軍部や政界の要職にあって親米反共の道を歩んできましたが、しだいに執権者の売国的で反統一的な振舞いに幻滅を感じ、民族のための真実の道を歩もうと海外に亡命しました。崔徳新先生は亡命生活のあいだ、南朝鮮社会の自主化、民主化の実現と祖国統一をめざす愛国活動を展開しました。かれは海外にいたとき何回かの祖国訪問過程をつうじて、どの道が真の愛国、愛族の道であるかを悟るようになりました。かれは、わが共和国が、自主、自立、自衛の国として朝鮮民族の高い誇りと尊厳を堂々と示している姿を見て感動し、祖国と民族を愛する人であれば過去を問わず、政見と主義主張、信教にかかわりなくすべて包容し、手をとってともに進む、われわれの正当かつ一貫した政策と民族大団結路線に

共感するようになりました。かれは民族主義者として、また天道教徒として、一生のあいだ憧憬し探し求めた地上の天国を祖国で見つけたといい、余生を祖国と民族のための正義の偉業にささげることを決心して、祖国に永住することを請願しました。崔徳新先生はかつてわれわれとは相反する道を歩んできましたが、過去と決別して祖国と民族のために再出発するという意思を表明したので、われわれはかれの希望を積極的に支持し、民族の大団結と祖国統一のために、ともに手をとって働くことにしました。かれは祖国のふところに抱かれたのち、天道教青友党中央委員会委員長として、祖国平和統一委員会副委員長として、祖国の隆盛発展と民族の大団結のために、祖国統一のために、息をひきとる日まで献身的に活動しました。崔徳新先生は、渇望した祖国統一の日を見ることなく他界しましたが、生涯の末期に祖国統一運動の隊伍に立って同胞とともに歩むことによって、人民に愛される愛国烈士として永遠の生命を保ち、内外の同胞に民族の和合と大団結の真意を悟らせました。

民族の大団結を実現するため、北と南、海外の各階層の同胞は思想と体制、信教の違いを超越して民族共通の利益を優先させ、祖国統一の偉業にすべてを服従させなければなりません。われわれはこれを民族の大団結を実現する根本原則とし、この原則を堅持しなければなりません。

民族の分裂によって一時的に形成された体制上の違いや思想と理念の違いよりも、5,000 年の悠久な歴史をつうじて形成され強固になった民族の共通性のほうが大きく、個々の階級、階層の利害よりも、一つの民族として統一を実現するという民族共通の要

求のほうがはるかに重要です。個々の階級、階層の思想と理念を擁護し、利益を実現するのが重要であるとしても、より重要なのは民族共同の偉業を実現することです。階級と階層は民族の一部分であるので、いかなる階級や階層も民族共通の利益をぬきにしては自己の利益を実現することができません。民族があってこそ階級があり、民族の利益が保障されてこそ階級の利益も保障されるのです。

外部勢力によってわが民族の自主性が踏みにじられているこんにち、朝鮮民族であればどの階級や階層も自己の利害にこだわって、民族共同の偉業である祖国統一の実現に支障をきたしてはなりません。狭小な利害と偏見にとらわれ、階級的利益を民族的利益の上に置いたり、階級的要求を実現するたたかいを祖国統一のたたかいと対置させてはなりません。まして、同じ民族同士が政見と主義主張の違いを口実に排斥したり、官権の力で弾圧し、思想と体制が違うからといって敵視するのは、北と南が共同で合意した民族大団結の原則に根本的に反するものであり、このような行為は民族に許されないことです。一つの民族として共通点にもとづいて団結せず、相違点を前面におしだして排斥し敵視するなら、朝鮮民族はいつになっても統一を実現することができないでしょう。

民族の大団結をなしとげるためには、北と南、海外同胞のあいだの接触と往来を頻繁にし、対話を積極的に発展させなければなりません。

全民族が共通の目的をめざして心と力を合わせるためには、民族内部に理解と信頼の雰囲気をつくりださなければなりません。

国が分断されて北と南が長いあいだ隔絶状態にあったため、一部の人は同じ血筋を引いた同胞を敵と誤解しており、また一部の人は民族の団結を望みながらも、信頼の不足から同胞と手をとり合うのをためらっています。民族内部に存在するこのような誤解と不信を解消し、民族の和解と団結をはかるには、自由に往来して接触し、対話を活発におこなわなければなりません。

自由な往来と接触、幅広い対話を実現するうえで重要なのは、分断の障壁を取り除き、あらゆる政治的・法律的障害を排除することです。われわれはすでに、分断の障壁を取り除き、北南間の自由往来と全面開放を実現するという提案を示し、その実現のためにねばり強く努力しています。要は、南朝鮮当局が民族分裂の障壁を取り除き、北と南、海外同胞間の自由往来と接触、対話を阻んでいる障害をすべて取り払うことです。現在、北南間の自由往来と接触を実現し、対話を発展させるうえで、南朝鮮の「国家保安法」は大きな障害となっています。南朝鮮では、北を訪問したり、海外で北半部の人と統一論議をした人を「国家保安法」にかけて処罰しています。高齢 70 の文益煥牧師と年若い林秀卿（リムスギョン）学生をはじめ訪北人士と多数の統一運動者が現在、この法の犠牲になって投獄されています。このような悪法をそのままにしておいては、北南間の自由な往来と接触は実現されず、対話も自由におこなうことができません。それゆえ、「国家保安法」は一日も早く撤廃されるべきです。

民族の大団結をなしとげるためには、祖国統一のたたかいで全民族的な連帯を強化しなければなりません。

民族の大団結は口先で実現されるものではありません。民族の

大団結は、祖国統一をめざすたたかいで心と力を合わせ、共同行動をくりひろげていく過程で実現され、強固になります。北と南、海外のすべての政党、団体と各階層の同胞は、祖国統一をめざすたたかいで支持声援し合い、共同歩調をとらなければなりません。

ここで第一義的に提起される重要な問題は、反統一勢力の民族分裂永久化策動と新たな戦争挑発策動を破綻させることです。北と南、海外の同胞は祖国統一を妨げている反統一勢力を孤立、弱体化させ、かれらの分裂主義的策動を粉砕するため、各種形態の共同闘争を積極的に展開しなければなりません。南朝鮮にある数万のアメリカ軍と 1,000 余の各種核兵器は、朝鮮半島の情勢を緊張させ、核戦争の危険をつくりだす根源となっています。われわれは一日も早く南朝鮮からアメリカ軍と核兵器を撤収させて、朝鮮民族の生存を脅かす核戦争の危険を除去し、朝鮮半島の平和のための確固とした保障を取りつけるべきです。北と南、海外のすべての同胞は、南朝鮮からアメリカ軍と核兵器を撤収させ、朝鮮半島を非核地帯・平和地帯にする全民族的なたたかいをくりひろげなければなりません。

民族の大団結をなしとげるためには、祖国の統一をめざしてたたかう北と南、海外のすべての政党、団体と組織、各階層同胞の組織的な連合を実現しなければなりません。

統一・愛国の志をともにするすべての同胞が連合して一つの隊伍に組織的に結集するときはじめて、強固な民族の団結が実現し、祖国統一をめざすたたかいで行動の統一と一致が保障されます。

全民族の組織的な団結を実現するためには、北と南、海外の各階層の同胞がともに自発的に参加できる組織がなければなりませ

ん。昨年、汎民族大会の決議によって発足した祖国統一汎民族連合がそうした組織になりうると思います。祖国統一汎民族連合は、国の自主的平和統一を志向する北と南、海外の愛国的な団体と組織、各階層人士の共同の努力によって結成されました。祖国統一汎民族連合は、自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則にもとづいて祖国の統一を実現することを使命とし、北と南、海外同胞の共通の意思を代弁する愛国的な統一運動組織です。民族の大団結を実現し、祖国の統一を早めるうえで、祖国統一汎民族連合がになっている任務と責任は重大なものがあります。これから祖国統一汎民族連合は同胞のあいだで隊伍をたえず拡大、強化し、祖国の統一を早める各種活動を積極的にくりひろげなければなりません。

祖国統一の前途にはまだ多くの障害と難関が横たわっていますが、われわれは祖国統一の明るい展望を確信をもって見通しています。

朝鮮民族の統一気運は非常に高まっています。北と南、海外の同胞は、1990 年代に必ず祖国の統一を実現する決意で統一運動に力強く立ち上がっています。こんにちにいたっては、誰も祖国を統一しようという朝鮮人民の意志をくじくことはできず、いかなる力も祖国の統一をめざす朝鮮民族の激しい流れをおしとどめることはできません。朝鮮人民は全民族の団結した力で祖国統一の前途に横たわる障害と難関を取り除き、必ずや祖国の統一を実現するでありましょう。

祖国が統一されれば、朝鮮民族は尊厳ある強力な民族となり、わが国は 7,000 万以上の人口とさん然たる民族文化と強力な経済をもった自主独立国家として国際舞台に登場することになるでし

ょう。朝鮮民族は勤勉で英知に富む民族であり、わが国はうるわしく住みよい三千里錦繍江山です。全同胞が一つに団結し、祖国の統一が実現されれば、われわれには恐れるものも、うらやむべきものもありません。人民は朝鮮民族の英知と偉容を誇らしく示し、誰も朝鮮民族の自主権を侵すことができないでしょう。祖国の統一後、全民族が力と知恵を合わせて経済と文化を発展させるなら、わが国はさらに富強で文化的な国となり、平和と繁栄をめざすアジアと世界各国人民の共同偉業にりっぱに寄与できるようになるでしょう。

こんにち、朝鮮民族として祖国統一のために献身するのはもっとも誇らしく生きがいのあることです。祖国統一の聖なる偉業に貢献した人は民族に愛され尊敬され、統一された祖国の名で高く評価されるでしょう。

わたしは、みなさんが祖国統一の前哨で祖国と民族から負わされた栄誉ある任務をりっぱに遂行するものと確信します。

全民族の団結の力で祖国の統一を
自主的に実現しよう

第 3 回汎民族大会に参加した海外同胞との談話

（1992 年 8 月 19 日）

祖国の平和と統一のための第 3 回汎民族大会に参加した海外同胞のみなさんに会えて非常にうれしく思います。

わたしは、第 3 回汎民族大会が成功裏におこなわれたことを高く評価し、熱烈に祝賀します。今回の汎民族大会には南側代表が参加できませんでしたが、祖国統一運動をより高い段階に拡大発展させるうえで重要な里程標をもたらした歴史的な大会でした。

みなさんが 1990 年代に必ず祖国を統一し、統一の広場にわたしと金正日（キムジョンイル）同志をともに迎えると述べ、わたしと金正日同志の万年長寿を願ってくれたことに感謝します。

祖国の統一は朝鮮人民にとってこれ以上遅らせることのできない民族至上の課題です。われわれは一日も早く祖国を統一して、全同胞の切なる願いをかなえてやらなければなりません。国が統一されれば、朝鮮人民は他の国に劣らず裕福に暮らすことができます。わが国は領土が大きくありませんが、3 面が海に囲まれ、地下資源が豊富で人口も 7,000 万にもなります。ですからわが国は統一さえされれば、経済を速やかに発展させ、すぐ世界の先進諸国の隊伍に列することができます。

祖国の統一は必ず自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則にもとづいて実現されなければなりません。わたしはすでに 1970 年代の初期に祖国統一の 3 大原則を示しましたが、この原則にもとづいてこそ国の統一を実現することができます。

祖国統一偉業の実現において、われわれはなによりも民族自主の原則を堅持しなければなりません。

外国勢力に依存しては国の統一を実現することができません。いま一部の国は、口では朝鮮の統一を支持するといっていますが、実際にはわが国が統一されるのを望んでいません。それらの国は、わが国が分断されていれば自分の思いどおりにできるので、内心では統一より分断を望んでいます。ですから、誰かしらの援助を受けて祖国の統一を実現しようとすべきではありません。

われわれの経験が示しているように、革命と建設で提起されるすべての問題を自主的に、自分の方式で解決していくことがきわめて重要です。われわれはこれまで、アメリカ帝国主義との戦いも、社会主義建設もわれわれの方式でやりました。

祖国解放戦争（朝鮮戦争）の時期、ソ連から来た人たちはソ連式の戦法を主張し、中国から来た人たちは中国式の戦法を主張しました。それでわたしはそういう人たちに、戦はソ連式でもなく中国式でもない朝鮮式でしなければならないと話しました。第 2 次世界大戦の時期、多くの領土を敵の手に渡して後退し、再攻撃したソ連式の戦法は、領土が狭いわが国の実情には合いません。わが国の実情のもとでは、下手に後退しては敵に全領土を奪い取られるおそれがありました。中国式の戦法も流動しながら戦う運動戦の方法ですが、それもやはり領土の大きくないわが国の実情

には合いませんでした。それでわたしは、わが国の実情に合う主体的な戦法で戦うことを決心し、事大主義者と教条主義者の主張に反対し「寸土をも敵の手に渡すな！」というスローガンを示しました。わたしはそのとき、人民軍の指揮官たちに、ソ連人はフォークで食事をし、中国人は箸で食事をするが、朝鮮人はさじで食事をする、これと同じように、戦もわれわれの方式ですべきだとし、わが国の地形条件に合わせて山岳戦を多くするよう強調しました。人民軍の指揮官たちは、わたしがうちだした戦法が正当であるといって全的に賛成しました。

祖国解放戦争の時期、教条主義者はソ連から平射砲をかなり買ってきましたが、それも満足に使うことができませんでした。山の多いわが国の地形条件のもとでは平射砲より曲射砲のほうが必要でした。曲射砲でなくては山の向こう側の敵を掃滅することができません。

われわれは戦争の時期に事大主義と教条主義に断固反対し、わが国の実情に合う主体的な戦法で戦ったため勝利することができたのです。

戦後も、われわれは他の国に頼らず、自力でわが国の実情に即した社会主義を建設しました。一時、現代修正主義者はわれわれにセフ（コメコン）に加入するよう圧力をかけてきましたが、われわれは自分の方式で自活していくといって加入しませんでした。われわれがセフに加入せず、自力更生、刻苦奮闘の革命精神を発揮し社会主義建設で提起されるすべての問題を自力で解決したのは、至極正当なことでした。最近、ソ連と東欧諸国で社会主義が崩壊しましたが、わが国では社会主義が微動だにせず生々発展し

ています。これは、われわれが他国に頼ることなく、われわれの方式で社会主義を建設したからです。わが国も以前の東欧社会主義諸国のように他国に依存していたならば、もうすでに崩壊してしまったことでしょう。

最近わたしは、平壌（ピョンヤン）を訪れた南朝鮮の人たちと会った席上でも、われわれはつねにチュチェ思想の要求どおり革命と建設で提起されるすべての問題をわれわれの方式で解決していると話しました。

外国人も、われわれがチュチェ思想の旗を高くかかげ、革命と建設で提起されるすべての問題をわが国の実情に合わせて自力で解決してきたのが正しかったことを認めています。

以前、駐日米大使だった人がわが国についての文章を書いたことがあります。かれは、以前からわが国についてかなり研究してきた人です。かれは自分の文章で、朝鮮の金日成（キムイルソン）主席は革命をはじめた当初から自主性のスローガンをかかげてたたかった、金日成主席は1950 年代初期の朝鮮戦争のときにも、すべての問題を自主的に自分の方式で解決した、それゆえ朝鮮にはどんな方式を押しつけても効果がない、いま南朝鮮当局者は「吸収統一」をするといっているが、かえって南朝鮮が北朝鮮に吸収されるおそれがある、と書いていました。

われわれは外国勢力への依存を断固反対し、民族自主の立場に確固と立って祖国の統一を自力で実現しなければなりません。

国の統一を自主的に、平和的に実現する基本的保障は、全民族の大団結を達成するところにあります。団結は、すべての勝利の決定的な要因です。北と南、海外のすべての朝鮮同胞が民族大団

結の旗のもとにかたく団結してたたかうならば、祖国統一の途上に横たわる現在の難局を打開し、1990 年代に国の統一を実現することができるでしょう。

わたしは革命と建設を指導する全過程で、つねに民族の団結の実現に第一義的な力を入れてきました。樺甸で「トゥ・ドゥ」を組織し革命活動をはじめた時期からこんにちにいたるまでほぼ 70 年のあいだ、わたしは民族統一戦線の実現をめざして、あらゆる努力をつくし、民族の団結の力に依拠して革命と建設を成功裏に推進してきました。

日本帝国主義を打倒して祖国を解放するための抗日革命闘争の時期には、反日民族統一戦線路線を示し、その実現をめざして鋭意努力しました。

わたしは抗日遊撃隊を創建するとすぐ、梁世鳳（リャンセボン）の独立軍部隊との統一戦線を実現するため、主力部隊を率いて南満州へ進出しました。南満州へ向かうとき、母に、梁世鳳が独立軍司令を務めているというから、わたしが部隊を率いて南満州に行ってかれとの統一戦線を実現するつもりだと話すと、母はそれがよいといいました。事実、当時朝鮮民族が団結せずばらばらになっていては、爪先まで武装した日本帝国主義との戦いで勝利することは不可能でした。ところが当時、海外の独立運動家はさまざまの原因によって団結できず、分裂していました。わたしはまず、梁世鳳との統一戦線を実現し、それにもとづいてすべての反日勢力との統一戦線を実現することを決心しました。抗日遊撃隊を引率し通化へ行って梁世鳳に会ったのですが、かれは非常にうれしがり、われわれを盛大に歓迎してくれました。梁世鳳はわたしの父と非常に

親しい間柄でした。かれはわたしの父の葬儀にも参列しました。わたしがかれに統一戦線の問題を提起すると、最初は関心を示しました。しかし梁世鳳は、自分の部隊に潜入していた日本帝国主義の密偵である参謀の離間策にのってわれわれと手を握るのを拒みました。参謀は梁世鳳に、抗日遊撃隊はいま独立軍を誘いこもうとしているが、まかりまちがえば部隊を全部奪われるおそれがある、といってわれわれとの統一戦線にくさびを打ち込みました。わたしは参謀の言動からして、日本帝国主義の密偵に違いないと判断しました。しかし、梁世鳳は参謀の正体を知らなかったため、かれの言葉をそのまま取り入れました。そのときわたしは、いまは梁世鳳がわれわれと手を結ぶのを拒んだが、将来いつかはわれわれと必ず手を結ぶに違いないと考え、そこを発って柳河、濛江を経て東満州へ行きました。

反日民族統一戦線路線の実現で決定的な契機となったのは、祖国光復会の創立でした。わたしは 1936 年 5 月に東崗で、反日民族統一戦線組織体である祖国光復会を創立しました。祖国光復会の綱領と規約、創立宣言はわたしが作成しました。祖国光復会創立宣言はわたしと数名の愛国志士の名で発表しましたが、わたしは金東明（キムドンミョン）という仮名を使いました。当時のわたしはまだ年も若く名前も広く知られていなかったので、仮名を使うほうが有利でした。

祖国光復会が創立され、その綱領と宣言が発表されると、各地に散らばっていた多くの独立軍部隊と反日運動家がわれわれを訪ねて来ました。梁世鳳が率いていた独立軍も、祖国光復会の創立後われわれを訪ねて来ました。梁世鳳の死後、独立軍の司令を務

めた金活石（キムファルソク）は蒋介石の国民党を崇拝し、かれと連係を結ぼうとあれこれ努力しました。日本帝国主義者はかれが国民党との連係を結ぼうとしていることを知り、蒋介石の特使を装った密偵を独立軍部隊に送りこみました。金活石は蒋介石が自分と会ってくれるという密偵の話を真に受けてかれについていきました。ところが、途中である家に泊って朝起きてみると日帝の警察署だったということです。日帝警察はかれに睡眠薬入りの酒を飲ませて眠らせ、翌朝起きるやいなや逮捕したのです。それで金活石は日本帝国主義者のために無念の死をとげたのです。その後、崔允亀（チェユンググ）が独立軍の司令を務めたのですが、かれが残っていた独立軍を率いてわれわれを訪ねて来ました。

わたしは抗日武装闘争の時期、天道教徒との統一戦線にも大きな力を入れました。当時、抗日遊撃隊の活動地域にかなりの天道教徒がいました。わたしはかれらを反日の旗のもとに結集するため、天道教下層との活動を積極的に展開する一方、上層を教育し包容する活動も同時におし進めました。当時、天道教咸鏡（ハムギョン）南道の道正は朴寅鎮（パクインジン）でしたが、かれは北青（プクチョン）、豊山（プンサン）、甲山（カプサン）、三水（サムス）など道内各地域の天道教徒を統轄していました。われわれは朴寅鎮との活動を積極的に進めてかれを祖国光復会の組織メンバーに加え、かれの影響下にあった多くの天道教徒を反日勢力として結集しました。咸鏡南道だけでなく平安（ピョンアン）北道の碧潼（ピョクトン）、昌城（チャンソン）、義州（イジュ）地方にも天道教徒がたくさんいましたが、かれらがわれわれと手を結んで反日闘争に奮起するようにしました。事実、日本帝国主義の植民地支配当時、天道教徒のうち崔麟（チェリン）一派を除くほとんどの天道教徒がわれわれと手を結びました。崔麟は日本の承認を受けて自

治を実現する方法で朝鮮の独立を達成すべきだといいましたが、日本の承認のもとに自治を実現するというのは話になりませんでした。朴寅鎮をはじめ良心的な天道教徒は、崔麟の「独立説」はでたらめなものだと反対し、われわれの武装闘争を積極的に支持しました。朴寅鎮の夫人がいまなお生きていますが、今年彼女の年齢は 93 と聞いています。前回わたしが抗日革命烈士の遺家族と会ったとき、朴寅鎮の夫人もその席に参加しました。彼女は年に比べてすこぶる元気でした。

抗日武装闘争の時期、われわれは各階層人民との統一戦線活動に力を入れたので、広範な大衆の積極的な支持声援を受けることができました。人民は敵の弾圧と監視の中でも、遊撃隊に食糧や被服など多くの物資を送り届けてくれました。当時の状況下で遊撃隊を援助するというのは容易なことではありませんでした。日本帝国主義は豆満江（トウマン）沿岸一帯をはじめ抗日遊撃隊の活動が活発な地帯に集団部落を設け、人民が抗日遊撃隊を援助できないように統制しました。かれらは、その年の農作がすむと農民に収穫高を報告させ、軍刀をつって畑に来ては確認までしました。けれども、農民はかれらの目を盗んではさまざまな方法で抗日遊撃隊に食糧を届けてくれました。農民は、秋にジャガイモ畑でジャガイモの収穫が終わったかのように茎を刈り取っては、その畑を抗日遊撃隊に知らせてジャガイモを掘っていかせ、またトウモロコシも収穫して山奥に設けた倉に貯蔵しては、それを抗日遊撃隊にもっていかせました。われわれは、農民が指定した畑でジャガイモを掘りつくせなかった場合は、そのままにしておいて翌年の春に凍ったジャガイモを掘り出して食べたりしました。

われわれは民族統一戦線の旗のもとにすべての反日愛国勢力をかたく結集し、広範な大衆の積極的な支持声援を受けて日本帝国主義と戦ったため、祖国の解放をなしとげることができたのです。

わたしは解放後にも、民族の団結のためにひきつづき大きな力を傾けました。

解放後、わたしは凱旋演説で、祖国の進むべき道を示しながら、国と民族を愛し民主を愛する全人民がかたく団結し、力のある人は力で、知識のある人は知識で、金のある人は金で建国事業に積極的に貢献することを呼びかけ、各階層人民の団結の力に依拠して民主主義の新しい祖国建設を力強くおし進めました。

同時に、国と民族の分裂を防ぎ祖国の統一を達成するため、南朝鮮の各階層の人士に多く会いました。解放後、南朝鮮から呂運亨（リョウンヒョン）、許憲（ホホン）をはじめ多くの人士がわたしを訪ねて来ました。呂運亨は祖国統一のために奮闘している最中、敵に暗殺されました。解放直後、南朝鮮からわたしに最初に手紙をよこしたのもかれでした。かれは平壌に幾度か来ましたが、一度はわたしに、自分がこれから南朝鮮に行けばいつどんなことになるかわからない、将軍の荷にならなければ子どもらを送るからりっぱに育ててもらいたいと頼みました。それで、大きい子をあずかるのはなんの負担にもならないから子どもらをよこしなさいといいました。そのとき呂運亨は、自分が南朝鮮に帰れば敵の手にかかるだろうと予感がしたようです。呂運亨が 2 人の娘をわたしによこしたのは幸いでした。かれの娘たちがわたしたちのところに来なかったなら、その運命がどうなったかはわかりきったことです。呂運亨は敵に暗殺されたため、南北連席会議に参加できませんでした。

南北朝鮮政党・大衆団体代表者連席会議は、1948 年 4 月に平壌で開かれましたが、これは解放後はじめて北と南の代表が一堂に会して救国対策を討議した全民族的な会合でした。われわれの積極的な努力により、南北連席会議には南朝鮮から多くの代表が参加しました。この会議には、南朝鮮から李承晩直系の政党を除いたほとんどの政党、大衆団体の代表が参加し、金九と金奎植も参加しました。みなさんは今回「統一戦線塔」があるスク島革命史跡地へ行けばわかるはずですが、わたしは南北連席会議が終わったあと、金九をはじめ南朝鮮から来た人士たちを連れてスク島に行き、以後の活動方向を討議しました。そのときわたしはかれらに、南朝鮮に帰って民族の団結を実現するため積極的にたたかう問題、李承晩の「単独選挙」を破綻させる問題をはじめ、連席会議で討議された重要な諸問題について再度強調しました。李承晩は全民族の反対にもかかわらず、アメリカ帝国主義にそそのかされて、強引に「単独選挙」を実施しました。

李承晩は外国勢力を後ろ盾にして「大統領」の座につきはしましたが、人民からは支持されませんでした。1956 年の「大統領」選挙のとき、李承晩と並んで、進歩党の党首であった曺奉岩も「大統領候補」として出馬したのですが、かれの得票数は李承晩に比べてわずかばかりの差しかありませんでした。最初は曺奉岩の支持者が多かったのですが、李承晩が詐欺といかさまの手口で選挙票を束にしてかき集めたので、わずかな差で優勢になったのです。あのとき「大統領」選挙が公正に実施されたなら、おそらく曺奉岩が「大統領」に当選していたはずです。南朝鮮の多くの人が曺奉岩を支持したのを見ると、進歩党の影響力は相当なもの

であったようです。曺奉岩は以前朴憲永（パクホンヨン）と親しい仲でしたが、その後仲たがいして李承晩のかいらい政府に入閣して「農林部長官」まで務めました。曺奉岩が進歩的な活動をくりひろげるや、李承晩はかれが北と連係を結んでいるという途方もない口実を設けて逮捕し、死刑に処しました。李承晩は、北をあこがれたり、北と連係があるとおぼしき者はすべて逮捕して処刑しました。

われわれは 1948 年までは、祖国の統一をめざす民族統一戦線活動で多くの成果をおさめましたが、その後この活動にはこれといった前進がみられませんでした。その間われわれは、民族の大団結をなしとげるために可能なあらゆる努力をしました。わたしは、民族大団結のために多くの文を発表し、演説もたくさんしました。みなさんも海外で民族の団結のために大いに努力しました。にもかかわらず、いまなおわが民族の完全な団結が実現せず、国の分断が持続しているのは、アメリカ帝国主義と南朝鮮かいらい一味の分裂主義的策動、ファッショ的弾圧策動のためです。

いまわれわれは、自主、民主、祖国統一を主張していますが、南朝鮮かいらいは、従属とファッショ、分裂の道を歩んでいます。北と南の対立と闘争は結局は、愛国者と売国奴、民主勢力とファッショ勢力、統一勢力と分裂主義勢力間の対立と闘争といえます。

南朝鮮当局者は、南朝鮮を完全にアメリカの支配のもとにゆだねています。アメリカと南朝鮮当局者は南朝鮮を「独立国家」だと宣伝していますが、なんの国権も自主権もなくアメリカの指揮棒にしたがって動く南朝鮮をどうして独立国家といえるでしょうか。南朝鮮人民も、南朝鮮はアメリカの完全な植民地であり、「大統領」はあやつり人形だといっています。南朝鮮がアメリカ

の支配下にあるかぎり、今後他の人が「大統領」の座につくとしても、かれもやはりアメリカの指揮棒にしたがって動くあやつり人形にならざるをえなくなるでしょう。南朝鮮当局者がなんの定見もなしにアメリカの指揮棒にしたがって動くのは哀れでなりません。

南朝鮮当局者は社会の民主化に反対しており、ファッショ的暴圧によって「政権」を維持しようとしています。南朝鮮にはいまなお「国家保安法」をはじめファッショ的悪法が存続しており、南朝鮮当局者は愛国的人民と青年学生を「国家保安法」にかけて弾圧しています。

南朝鮮当局者は国の統一に反対し、アメリカの「二つの朝鮮」策動に積極的に追従しています。いまの南朝鮮当局者の行動を見ると、わが国を永久に二分しようとしているのが明白です。南朝鮮当局者は、国が分断されていればアメリカの支持を受け、民主運動をファッショ的に弾圧して権力の座を維持することができるものと思っています。

南朝鮮当局者は、北と南、海外同胞が一堂に会して統一の対話をすることも必死になって妨害しています。今回の汎民族大会に南側代表が参加できなかったのも、南朝鮮当局者のファッショ的弾圧策動のためです。南朝鮮当局者は、数万の武装警察を動員し、今回の汎民族大会に参加するため北へ来ようとする南側代表を銃剣で弾圧しました。

いま南朝鮮当局者は、われわれが北南連席会議か政治協商会議のようなものを開こうと提案しても、なんの肯定的な返答もしていません。

最近、南朝鮮当局者がわれわれとの「頂上会談」を提起しました。それでわたしは、そのような会談自体は反対しない、しかしわたしに会うというなら新しい統一方案を用意すべきだ、われわれはすでに連邦制統一方案を示しているが、それより合理的な方案があれば出してもらいたい、もし新しい統一方案が用意されていないならば、われわれの連邦制統一方案に賛成してもよい、北と南が最高位級会談をするなら、一定の統一方案をもって論議すべきであって、ただ対座してお茶を飲み、冷麺でも食べて別れるのでは、無意味だといいました。ところが、南朝鮮当局者はなんの統一方案も出しておらず、われわれが示した連邦制統一方案にも賛成していません。南朝鮮当局者が外国にしばしば出かけて「頂上会談」をしているとのことですが、おそらく国と民族のための会談ではなく国と民族を売り渡す会談でもしているのでしょう。

南朝鮮当局者がわれわれの連邦制統一方案に賛成していないのは、アメリカが承認しないからだと思います。アメリカはわが国が統一されるのを快く思いません。アメリカはなんとしても、南朝鮮かいらいをそそのかしてわが国を二つに分断させておき、わが国の社会主義制度を崩壊させようとしています。かれらは「吸収統一」しようと企みましたが、それが不可能だと知り、いまは孤立させ窒息させる方法をとっています。南朝鮮当局者がもちだしてきた「北方政策」なるものも、「二つの朝鮮」をつくりあげ、われわれを国際的に孤立させようとするものであり、アメリカがわれわれにありもしない「核問題」で騒ぎ立てているのも、結局はわが共和国を圧殺しようというのが目的です。最近、核査察問題をもってわれわれにいいがかりをつけていたアメリカは、われ

われが南朝鮮にあるアメリカの核基地も査察すべきだと主張すると、なにもいえないでいます。事実、われわれはすでに国際原子力機関の査察を受けたのですから、公正の原則で今度は南朝鮮にあるアメリカの核基地を査察しなければなりません。ところがアメリカは最近、南朝鮮当局者と口を合わせて「同数査察」問題をもちだしています。これは言語道断です。

アメリカは、「二つの朝鮮」をつくりあげてわが国の社会主義制度の転覆をはかっていますが、それは愚かな妄想です。朝鮮民族は長い歴史と文化をもった単一民族であり、なんぴともわが民族の永久分裂をはかることはできないでしょう。そして、わが国の社会主義についていうならば、以前のソ連や東欧諸国の社会主義とは根本的に異なります。わが国の社会主義は人民大衆中心の社会主義です。アメリカ帝国主義者がわれわれを圧殺しようといくら策動しても、わが国の社会主義は絶対に崩壊しないでしょう。

われわれはいままで 50 年近いあいだ、帝国主義の圧力と封鎖のなかで生きてきました。そのため、アメリカ帝国主義が「経済制裁」だのなんのといくら脅迫しても、朝鮮人民は驚きも恐れもしません。ソ連と東欧諸国の社会主義が挫折したからと、われわれが生きていけないわけではありません。

われわれには食べるものも着るものもあり、この世でもっともすぐれた社会主義制度があります。朝鮮人民は他国に比べてぜいたくといえる暮らしはしていませんが、食・衣・住の心配、治療を受ける心配、子どもを学校にやる心配をせず幸せに暮らしています。

いまわが党は、白米の飯に肉汁を食べ、絹の服を着て瓦ぶきの家に住みたいという人民の宿望を実現するために努力しています。

われわれはまだ人民に食肉を十分に供給できずにいますが、なんとしてもこの問題を解決しようと思っています。

われわれが党の農業第一主義の方針をりっぱに実行して穀物生産を増やせば食肉の問題を解決し、軽工業革命を促せば商品の問題も円滑に解決することができます。そうなれば、人民の生活はいまよりさらに向上し、朝鮮式社会主義の優越性はより高く発揮されるでしょう。

いま、世界の多くの国の人が、朝鮮式の社会主義がいちばんだといってわが国を訪問しています。この 4 月にも、わたしの誕生 80 周年にさいし、世界各国から数多くの代表団と代表、進歩的人士がわが国を訪問しました。かれらはわが国の現実を見ては、社会主義を建設するなら朝鮮式にすべきだといいました。そのとき、共産党、労働者党をはじめ各国の党が平壌で、社会主義偉業を擁護し前進させる宣言を採択して署名しました。平壌宣言は、社会主義をめざす世界の革命的党と進歩的人民の共通の闘争綱領として、その生命力と正当性が日を追っていっそう明らかに実証されています。平壌宣言が採択、発表されて数か月しか経っていませんが、宣言を支持、賛同して署名した党はすでに 131 に達しています。これは、社会主義が人民の心に依然として生きていることを物語るものです。社会主義は一時的に曲折を経てはいますが、必ず再生して前進することになるでしょう。

偉大なチュチェ思想を具現している朝鮮式の社会主義は必勝不敗です。領袖、党、大衆が一心同体となっており、全社会がひとしく行動するわが国の社会主義はなんぴともあえて侵すことができないでしょう。アメリカは、朝鮮も東欧社会主義諸国のように

すぐ崩壊するものと思っていたのですが、一心団結したわれわれの威力を見て、このごろは多少、考えを改めるようになったようです。

北と南、海外のすべての朝鮮同胞がかたく団結しさえすれば、内外の分裂主義者の妨害策動を粉砕して祖国の統一を達成することができます。

いま南朝鮮では、民族の団結と統一を望む人が多数を占めています。南朝鮮で国と民族の分裂を追求する勢力はごく少数にすぎません。数年前、南朝鮮の民主人士文益煥（ムンイクファン）牧師が平壌を訪問したことがあります。そのときわたしはかれに、南朝鮮には自主、民主、祖国統一を望む人のほうが多いのか、それとも従属とファッショ、分裂を追求する人のほうが多いのかと尋ねたところ、かれは、統一を望む人が大多数で、分裂を望む人はわずかだと答えました。事実、南朝鮮で従属とファッショ、分裂を追求する勢力は少数の権力層と一部の軍部層、それに一部の買弁資本家だけです。南朝鮮ではこのごく少数の分裂主義勢力が権力を掌握し、銃剣をもって自主、民主、祖国統一を志向する進歩的勢力を弾圧しています。南朝鮮で、自主、民主、祖国統一を志向する勢力と、従属、ファッショ分裂を追求する勢力との矛盾はますます激化しており、両勢力間に熾烈なたたかいがくりひろげられています。こうした状況にあって、誰が祖国の統一を願い、誰が民族の分裂を追求しているのかを明らかに区別しておくことがなによりも重要です。穀物をふるいにかけて選別するように、南朝鮮の統一勢力と分裂勢力を分け、統一勢力をいっそう拡大していかなければなりません。

全民族の団結を実現するためには、北と南、海外同胞間の対話を積極的に発展させ、全民族的な会議のようなものをたびたび開催しなければなりません。

今後、全民族的な会議は、北南連席会議の形式でもよいし、各階層の連合会議や政治協商会議の形式でも開けるでしょう。南北連席会議があってからもはや 40 年も経っているので、連席会議を再び開催すれば、民族的団結を達成する重要な契機となるでしょう。

今後、汎民族大会もひきつづき開催すべきです。

汎民族大会を全民族の大団結を実現する大会にするには、北と海外の代表だけでなく、南側代表も参加しなければなりません。もちろん、北と海外の代表だけの汎民族大会も民族的団結の実現において一定の役割を果たしますが、南側代表が参加しなければ汎民族大会が全民族の大団結の達成に大きく寄与することができません。今回の汎民族大会では南側代表が送ってきた文書を付け加えて共同決議文を採択しましたが、文書の上で合意した共同決議文を発表するだけではさほど意義がありません。これでは、汎民族大会が対外的な示威にはなるとしても、南朝鮮人民に及ぼす影響力はそれほどのものではありません。汎民族大会に南側代表が参加しなければ、結果的にはその意義と影響力がそれだけ弱まります。北と海外の代表だけでなく、南側代表も参加する汎民族大会をしてこそ、それが名実ともに汎民族大会になるでしょう。ですから、汎民族大会は必ず、北と南、海外の代表がすべて参加する原則で開催すべきです。

南側代表まで参加する汎民族大会を北で開くのがむずかしけれ

ば、日本のような第 3 国で開催してもよいでしょう。そして、汎民族大会に南側代表を最初から多く参加させなくてもかまいません。最初はおよそ 20 名か 50 名ほど参加させ、徐々にその数を増やすのがよいでしょう。わたしの考えでは、汎民族大会を最初は外国で催して少数の南側代表を参加させ、大会の場所を平壌かソウルに移してから南側代表の参加者数を増やすのがもっとも理想的だと思います。

北と南、海外のすべての朝鮮同胞は所属と党派にかかわりなく、思想と政見、信教の違いを超越して一つにかたく団結すべきです。

わたしは、海外同胞のみなさんが民族の大団結を達成するたたかいを力強くくりひろげ、祖国統一の聖なる偉業の実現に大きく寄与するものと信じます。

みなさんが民族大団結の実現のために積極的にたたかうことを決意したのはよいことだと思います。

みなさんが今後もたびたび祖国を訪問するよう望みます。

北と南の女性は団結して祖国の統一を促進しよう

「アジアの平和と女性の役割」にかんする第３回
平壤討論会に参加した南側代表団、海外同胞女性との談話
（1992 年９月６日）

わたしは、みなさんが遠路をいとわずわたしを訪ねてくれたことに感謝します。みなさんとこうして会えて非常にうれしく思います。

わたしは今回の「アジアの平和と女性の役割」にかんする第３回平壤討論会が大きな成果をおさめたことにたいし、みなさんに祝賀を送ります。

祖国を統一するには、なによりも北と南、海外のすべての朝鮮民族が大団結をなしとげなければなりません。

わたしは朝鮮民族が大団結して祖国を統一することについて、以前にも重ね重ね強調しました。わたしは南朝鮮から来た代表に会うときにも、祖国を統一するには一にも二にも民族の大団結をなしとげるべきだと話しました。全朝鮮民族が思想と体制、政見と信教の違いを越えて全民族的な大団結をなしとげれば、祖国の統一は必ず実現するものと考えます。

全民族の大団結をなしとげるためには、いかなる形であれ会合をたびたび催すことが必要です。今度の「アジアの平和と女性の

役割」にかんする第 3 回平壌討論会に南朝鮮の女性代表団が参加したこと自体が、人口の半分を占める北と南の女性が統一の片方の車輪を動かすために団結していることを示すもので、非常によいことです。みなさんが今度平壌に来たのは、祖国の統一をめざす道で女性がおさめた大きな成果であるといえます。今後南朝鮮の女性がたびたび北に来、また北の女性が南朝鮮へ行き、このように北と南の女性だけでもたびたび会うようになれば、知己になり、親近感も増し、民族の団結の実現と国の統一の促進に寄与することになるでしょう。

わたしはこの機会をかりて、南朝鮮の各階層の女性にわたしの心からのあいさつを伝えてくれるよう、南側代表のみなさんにお願いします。

みなさんは今度平壌に来てみて、平壌がじつに美しく建設され、公害もないのが印象的だといいましたが、平壌は昔から景色が美しいので朝鮮 8 景の一つと称されてきました。ところが平壌は祖国解放戦争（朝鮮戦争）のときすべて破壊されました。朝鮮人民は破壊された平壌を以前にも増して美しく建設しました。いま平壌市民は誰もが美しい都市で幸せに暮らしています。

平壌は公害がありません。われわれは平壌の建設にあたって、公害の原因となる工場は建設しませんでした。工場を建設する場合、紡織工場や機械工場のように公害のない工場だけ建て、公害を発生させる化学工場や金属工場などは都市から離れたところに建設しました。建設も人びとにすこやかで豊かな暮らしをさせるためにするものなのに、健康を害する工場を建設することはないでしょう。われわれはいつも人びとの集中しているところに大き

な工場、とくに公害のもととなる工場を建設するのを差し止めました。

車の排気ガスによる公害の防止にも深く留意しています。われわれは自家用車の利用をできるだけ制限しています。都市に車が多くなると、排気ガスのため公害が生じます。そのためわれわれは自家用車が多くなるのを奨励しておらず、市民にトロリーバスやバス、地下鉄を広く利用させており、自転車も多く利用させています。

みなさんは、平壌は空気が澄んでおり、水も清らかでじつにすばらしいといいましたが、そのとおりです。わが国を訪問する外国人も、平壌は公害がないのですばらしいといっています。

今度みなさんは金剛山（クムガン）へ行ったとのことですが、外金剛（ウェグムガン）と三日浦（サムイルポ）など金剛山の一部を見ただけで、海金剛（ヘグムガン）のような金剛山の美しい景色をすべて見られなかったはずです。海金剛は船に乗って眺めるべきです。叢石亭（チョンソクチョン）をはじめ海金剛の奇岩と絶景はあまりにも奇妙で美しいので、そこに行くとあたかも昔の伝説に出てくる仙人になったような気分になります。三日浦も美しいところです。三日浦は淡水湖です。海のそばに大きな淡水湖があるのはまれなことです。金剛山は水も清らかできれいです。金剛山の水は汚染しておらず、菌がないので飲んでも大丈夫です。

われわれは金剛山をりっぱに整備することを計画しています。多くの人が金剛山に行ってみては、金剛山の整備に投資するといっています。南朝鮮の企業家も金剛山に行っては投資すると語りました。金剛山の整備にあたって、それほど大がかりに建設すべきものはなく、訪れる人びとのためにホテルをもう少し建てれば

よいのです。金剛山にはロープウエーがありませんが、それを設置し、還暦を越した老人はゴンドラに乗せて見物させればよいでしょう。還暦前の人は大丈夫ですが、高齢の老人は歩いて登るのは無理です。今度 80 歳の老人も歩いて九竜(クリョン)淵まで登ったとのことですが、大したものです。わが国の青年は登山隊を組んで金剛山へ登り、テントを張って寝泊まりしながら徒歩で金剛山を探勝しています。金剛山にロープウエーを設置すれば見物には便利ですが、自然環境が破壊されるので好ましくありません。われわれはいま国の美しい風致をなんとしてもそのまま保存しようと努力しています。金剛山をどう整備するかは、これから人民と広く討議してから確定しようと思います。

みなさんがこのつぎに来るときは、妙香(ミョヒャン)山と白頭(ペクトウ)山にも行くのがよいでしょう。妙香山には檀君(タングン)が弓術を練磨したという場所もあり、多くの伝説も秘められています。妙香山は日本侵略者が侵入してきたとき西山(ソサン)大師が僧侶で義兵を組織して戦いに決起させたところとして有名です。民族の英知を反映している遺跡と伝説は民族の貴い文化遺産です。

わが国で白頭山ほど壮大なところはないと思います。白頭山に行くと、なによりもこの山はほんとうに壮大でわが国は偉大だという感にうたれます。

わたしは白頭山の自然環境が破壊されるおそれがあるので三池淵(サムジヨン)で開催する予定だった冬季アジア競技大会を取り消すことにしました。冬季アジア競技大会を主催するには金も多くかかりますが、それよりも白頭山の自然環境が破壊されるのが大きな問題です。三池淵はわが国随一の名勝であるのに、冬季アジア競技大会

のためにスキー場などを建設すれば、白頭山の風致が破壊されるおそれがあります。冬季アジア競技大会はスキー競技などを一度すればそれで終わりますが、自然環境は一度破壊されると復旧するのが困難です。

白頭山に行くのは夏が最適です。白頭山は秋になると天気が非常に変わりやすく、冬は気温が零下 40 度以下に下がり、雪が多いので登るのが困難です。日本のある女性登山家は 1987 年の冬にわが国を訪問して白頭山に登ったことがありますが、彼女も山頂をきわめるのにかなり難渋したそうです。

みなさんは女性たちの会議を白頭山でも開き漢拏(ハンラ)山でも開いて、女性たちの手で白頭と漢拏をつなぎたいといいましたが、りっぱな考えです。わたしもその意見に賛成です。

共和国北半部の女性は国家から多くの恩恵を受けているというみなさんの話ですが、そのとおりです。

共和国北半部には、女性が職場で安心して働けるよう、国家の負担で工場と農村をとわずどこにも託児所と幼稚園が設けられています。そのため、母親は子どもの養育になんの不便もなく職場で安心して働いています。託児所と幼稚園を多く建設したので、女性たちは非常によろこんでいます。

共和国北半部には週間託児所と週間幼稚園もあります。週間託児所と週間幼稚園では両親が職場に勤める家庭の子どもをあずかっていますが、主に出張の多い人がここに子どもをあずけています。記者、芸術家、科学者のように出張の多い女性は毎日子どもを託児所や幼稚園に連れて行くのが困難なので、週間託児所や週間幼稚園にあずけています。しかし、ほとんどの親は子どもを自

分の手で育てる楽しみもあって昼は託児所にあずけ、夕方連れて帰ります。

みなさんは平壌産院を参観したとのことですが、産院を建設したので女性が非常によろこんでいます。それは産婦が産院に入院して出産すれば医師に助けられて分娩もらくになり、新生児を死なせることもないからです。いま平壌産院は医療奉仕をりっぱにしています。

団長先生が平壌への出発を前にして文益煥（ムンイクファン）牧師に面会に行くと、平壌に行ったらわたしにあいさつを伝えてほしいと伝言されたそうですが、感謝します。

わたしは北南高位級会談のたびに総理に、南側の「総理」に文益煥牧師の釈放を提起するよう指示しています。しかし、南朝鮮当局はいまなおかれを釈放していません。文益煥牧師が 70 歳の高齢で平壌に来たことを「利敵行為」だとして収監する必要はないではありませんか。たとえ「利敵行為」をしたとしても、高齢の老人を何年間も獄につないでいるのはひどすぎると思います。文益煥牧師が法に違反したので拘留するというなら、高齢者であることを考慮して自宅監禁ということにしてもよいはずです。わたしは文益煥牧師が早く釈放されるよう望みます。

わたしは、平壌で開催された第 13 回世界青年学生祭典に南朝鮮の全大協の代表として参加した林秀卿（リムスギョン）学生と宴会場で会いました。彼女が南朝鮮に帰ろうとするとき、わたしは関係者に、彼女がいま行けば南朝鮮当局者に逮捕されるに違いないから、すぐ帰らず情勢を見ながら行くよう説得するようにといいました。ところが林秀卿学生はいくら説得されても、自分は死ぬことがあっ

ても必ず行くといい張りました。そんなときに文奎鉉神父が来て、自分はカトリック教徒なので南朝鮮に行っても大丈夫だから林秀郷学生を連れていくと申し出ました。林秀卿学生と文奎鉉神父は南朝鮮に行く前にローマ法王に送る手紙を発表し、祈とうした後、板門店（パンムンジョム）の境界線を越えました。かれらは板門店の境界線を越えるやいなや逮捕されました。ですからローマ法王もカトリック教も無用というものではありませんか。林秀卿学生も世界青年学生祭典に参加するため平壌に来たことで 5 年の刑を受けて服役中です。若年の女学生に平壌に来たということで 5 年もの刑を科したのも過酷です。

南朝鮮の「大統領」は「7・7 宣言」などと聞こえのよいことをいいましたが、高齢 70 の牧師や若年の女学生を平壌に行ったという罪ならぬ罪を着せて投獄し、また多くの青年学生と良心的な人士を手当たりしだいに逮捕、拘禁しているというのに、われわれがそれを快く思うはずがないでしょう。文益煥牧師や林秀卿学生が「政府」の許可を得ずに平壌を訪問したというなら、かれらを懲戒する意味で 1 年か数か月程度拘禁するなら別ですが、何年間も監獄につないでいるというのはひどすぎます。わたしはみなさんの前で南朝鮮当局者を誹謗しようとするのではなく、かれらの行動がひどすぎるのでいうのです。

みなさんは今度、期待以上の大きな成果をおさめて帰れるようになってありがたいとのことですが、お言葉に感謝します。

わが方の女性代表団団長はわたしに、南側の女性代表団のメンバーがわたしとの会見を望んでいるから、みなさんと会ってあいさつを交わし、記念写真を撮ってほしいと提起しました。それで

わたしは、南朝鮮からの初の女性代表団であるのに、簡単にあいさつを交わして別れてはさびしく思うではないか、昼食を一緒にするのが礼儀ではないかと、こうして昼食会を用意したのです。

わたしは祖国の統一のために、全民族の大団結のために、そしてこのたびの「アジアの平和と女性の役割」にかんする平壌討論会が成功裏におこなわれたことを祝い、またみなさんの健康を祈って乾杯することを提起します。

この宴会はみなさんのために用意したのですから、遠慮なく召しあがってください。

凍りジャガイモ麺は両江（リャンガン）道特有のものです。凍りジャガイモ麺は、両江道の恵山（ヘサン）をはじめ白頭山一帯で多く食しています。在米同胞たちが祖国を訪問したとき、これをご馳走したことがありますが、そのときかれらはこの麺の作り方をメモして帰りました。その後かれらが再び祖国を訪問したとき、凍りジャガイモ麺を食してみたかと聞くと、ジャガイモを冷蔵庫で凍らせてつくってみたが、うまくいかなかったと答えました。凍りジャガイモ麺は冷蔵庫で凍らせたものではよくできません。ドイツの女流作家ルイズ・リンザは毎年わが国を訪問していますが、彼女に凍りジャガイモ麺をもてなし、ドイツ人はこういう麺の作り方を知っているかと聞くと、知らないと答えました。凍りジャガイモ麺は地中で凍ったものを使わなければうまくいきません。

われわれが祖国解放をめざして抗日武装闘争を進めていたとき、日本帝国主義者は人民が遊撃隊に食糧を送れないように食糧統制を強化しました。しかし、農民は遊撃隊に食糧を送るため、ジャガイモ畑で茎だけ取り払って収穫を終えたように見せかけ、

それを遊撃隊に知らせてくれました。すると遊撃隊員たちがジャガイモ畑に行って掘り出してきましたが、残った分は翌年の春に掘り出しました。春になって凍ったジャガイモを掘り出すと、解けてじくじくしますが、それを干してから、粉にして麺にします。この麺の作り方は両江道の人がよく知っています。

南朝鮮にいる孫仁実（ソンインシル）が今度みなさんと一緒に来ようとして来られなかったとのことですが、帰ったらわたしのあいさつを伝えてください。

きょうのこの席には北と南の女性が同席しましたが、誰が南の女性であり、誰が共和国北半部の女性なのか区別がつきません。それはみんな同じ朝鮮民族であるからです。

わが国を二分したのは外国人です。いまも外国人はわが国の統一を妨げ、朝鮮民族を永久に二つに分裂させようとしています。朝鮮民族を二つに分裂させてこそ思いどおりに支配できるからです。

われわれは全民族が団結して、必ず国を統一しなければなりません。

わたしは、みなさんが国の統一のため大いに努力してくれるものと信じます。

祖国統一のための全民族大団結10大綱領

（1993年4月6日）

ほぼ半世紀にわたる分断と対決の歴史に終止符を打ち、祖国を統一するのは、全民族の一致した要求であり意志である。祖国の自主的平和統一を実現するためには、全民族が大団結しなければならない。民族の運命を憂える人であれば、北と南、海外を問わず、共産主義者と民族主義者、無産者と有産者、無神論者と有神論者であるとを問わず、あらゆる違いを超越してまず一つの民族として団結し、祖国統一の道をともに切り開いていくべきである。

力のある人は力を、知識のある人は知識を、金のある人は金を出し、誰もが国の統一と統一した祖国の隆盛発展のためにそれぞれ特色のある寄与をすることによって、民族の分裂に終止符を打ち、統一した 7,000 万同胞の尊厳と栄誉を世界にとどろかせなければならない。

1　全民族の大団結によって、自主、平和、中立の統一国家を創立すべきである。

北と南は現存する二つの体制、二つの政府を存続させ、各党、各派、各階層のすべての民族構成員を代表する汎民族統一国家を創立しなければならない。汎民族統一国家は、北と南の両地域政府が同等に参加する連邦国家となり、いかなる大国にも傾かない自主、平和、非同盟の中立国とならなければならない。

2　民族愛と民族自主精神にもとづいて団結すべきである。

全民族は、各自の運命と民族の運命を一つに結びつけて民族を熱烈に愛し、民族の自主性を生命として守る一つの意志で団結しなければならない。朝鮮民族の尊厳と誇りを抱き、民族の主体意識をむしばむ事大主義と民族虚無主義を排撃しなければならない。

3　共存、共栄、共利をはかり、祖国統一偉業にすべてを服従させる原則のもとに団結すべきである。

北と南は、相異なる思想と理念、体制の存在を認めて尊重し、互いに侵害することなく、ともに進歩と繁栄を遂げなければならない。地域的・階級的利益に全民族の利益を優先させ、あらゆる努力を祖国統一偉業の実現に傾注しなければならない。

4　同族間の分裂と対決を助長する一切の政争を中止して団結すべきである。

北と南は、対決を追求したり助長してはならず、あらゆる形の政争を中止し、誹謗中傷をやめなければならない。同族同士で敵視することなく、民族の力を合わせて外部勢力の侵略と干渉に共同で対処しなければならない。

5　北侵と南侵、勝共と赤化の危惧をともに解消し、互いに信頼し団結すべきである。

北と南は、互いに相手側に脅威を与えたり侵略してはならない。相手側に自己の体制を強要したり、相手側を吸収しようとしてはならない。

6　民主主義を貴び、主義主張の違いを理由に排斥することなく、祖国統一の道でともに手をとりあって進むべきである。

統一のための論議と活動の自由を保障し、政治的反対派であるからといって弾圧、報復、迫害、処罰してはならない。親北、親南を論難してはならず、すべての政治犯を釈放、復権させ、祖国統一偉業にともに寄与できるようにしなければならない。

7　個人または団体所有の物質的・精神的財貨を保護し、それを民族の大団結をはかるのに有利に利用することを奨励すべきである。

統一前は言うに及ばず、統一後にも国家的所有、協同的所有、私的所有を認め、個人または団体の資本と財産、外国資本との共同利権を保護しなければならない。科学、教育、文学、芸術、言論、出版、保健医療、スポーツなどの各部門で各自が担っている社会的名誉と資格を認め、功労者が受けている恩恵を引き続き保障しなければならない。

8　接触、往来、対話を通じて全民族が互いに理解し信頼し、団結すべきである。

接触と往来を妨げるあらゆる障害を取り除き、誰にも差別なく往来の扉を開かなければならない。各党、各派、各階層に同等な対話の機会を与え、双務的・多務的対話を発展させなければならない。

9　祖国統一をめざす道で、北と南、海外の全民族は相互の連帯を強めるべきである。

北と南、海外で、祖国の統一に有益なことは偏見を持つことなく支持声援し、有害なことはともに排撃すべきであり、各自の狭い枠から脱し、歩調を合わせて協力しなければならない。祖国統一のための愛国事業で、北と南、海外のすべての政党、団体と各階層の同胞は組織的に連合しなければならない。

10　民族の大団結と祖国統一の偉業に貢献した人を高く評価すべきである。

民族の大団結と祖国の統一に功を立てた人、愛国烈士とその子孫に特恵を施さなければならない。かつて民族を裏切った者であっても、過去を反省し愛国の道に立つならこれを赦し、祖国の統一に寄与した功労によって公正に評価しなければならない。